

CAUA第7回合同研究分科会

# 早稲田大学の情報化戦略

早稲田大学

情報化推進担当 部長

メディアネットワークセンター 所長

基幹理工学部 情報理工学科 教授

深澤良彰

2008.10.24

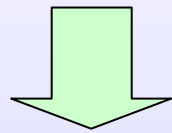
# 内容

- 自己紹介
- 早稲田大学の情報化戦略
  - 情報化に求められるもの
  - 情報化推進プログラム
    - 6個の柱
  - 情報化の現状
    - 事務系システム、Waseda-Netポータル、CourseN@vi、オンデマンド授業、ネットワーク型外国語学習プログラム
  - 産学連携と社会貢献
    - DCC,ACPA,FOLC
  - 人材育成
  - まとめ

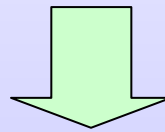
# 駕籠に乗る人、担ぐ人、そのまた草鞋を作る人

## ソフトウェア工学とは？

良いソフトウェアを簡単に作るための  
方法論・技術・考え方



究極の「ソフトウェア工学」 = できるだけ  
自分で作らないこと



- ・自動生成
- ・再利用

その時代の技術に  
応じた自動生成/  
再利用技術

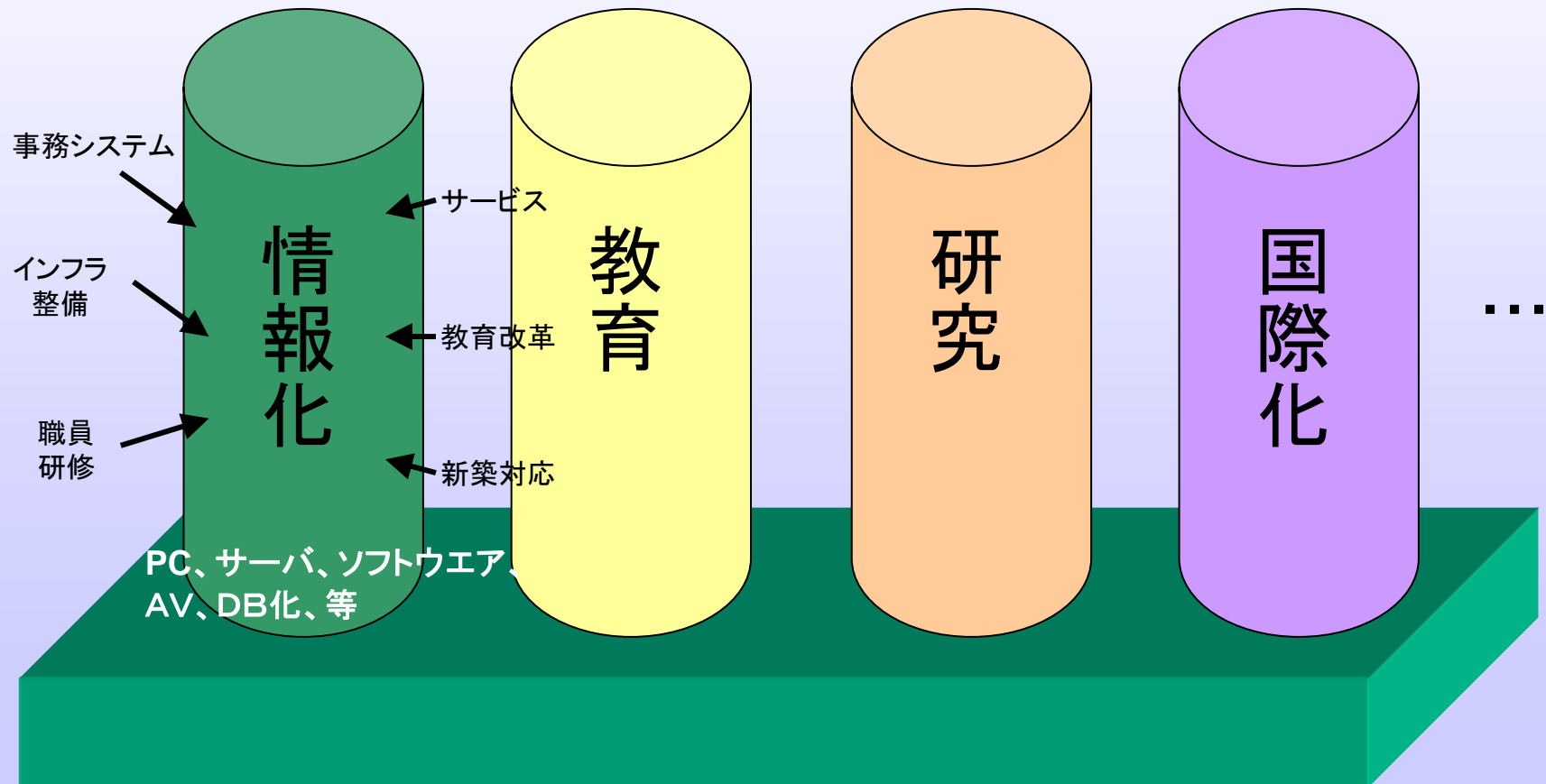


歌川広重「東海道五十三次」三島(朝霧)

残るのは、人間の  
的なファクター  
(要求獲得、使用  
容易性など)

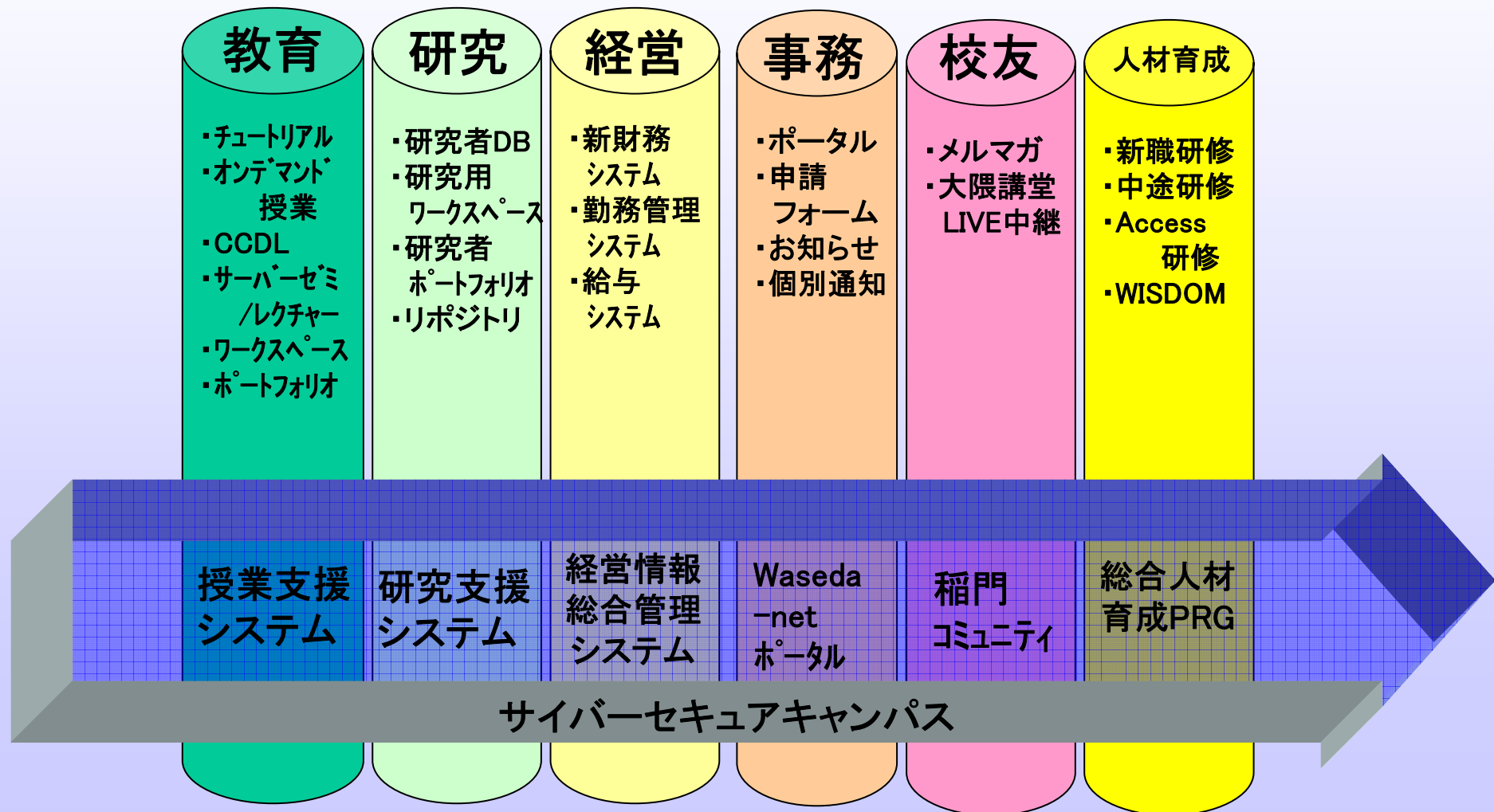
# 大学の情報化に求められるもの(過去)

- ・ 「情報化」とは、『目的』
  - 端末室XXX台整備、学生全員にメールアドレス配付・・・
  - 教員・職員に対して、1人1台のPC環境・・・



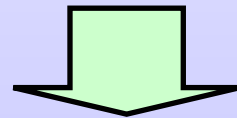
# 大学の情報化に求められるもの(現在)

- 「情報化」という『手段』を使って、より一層、  
教育・研究の直接的支援を！



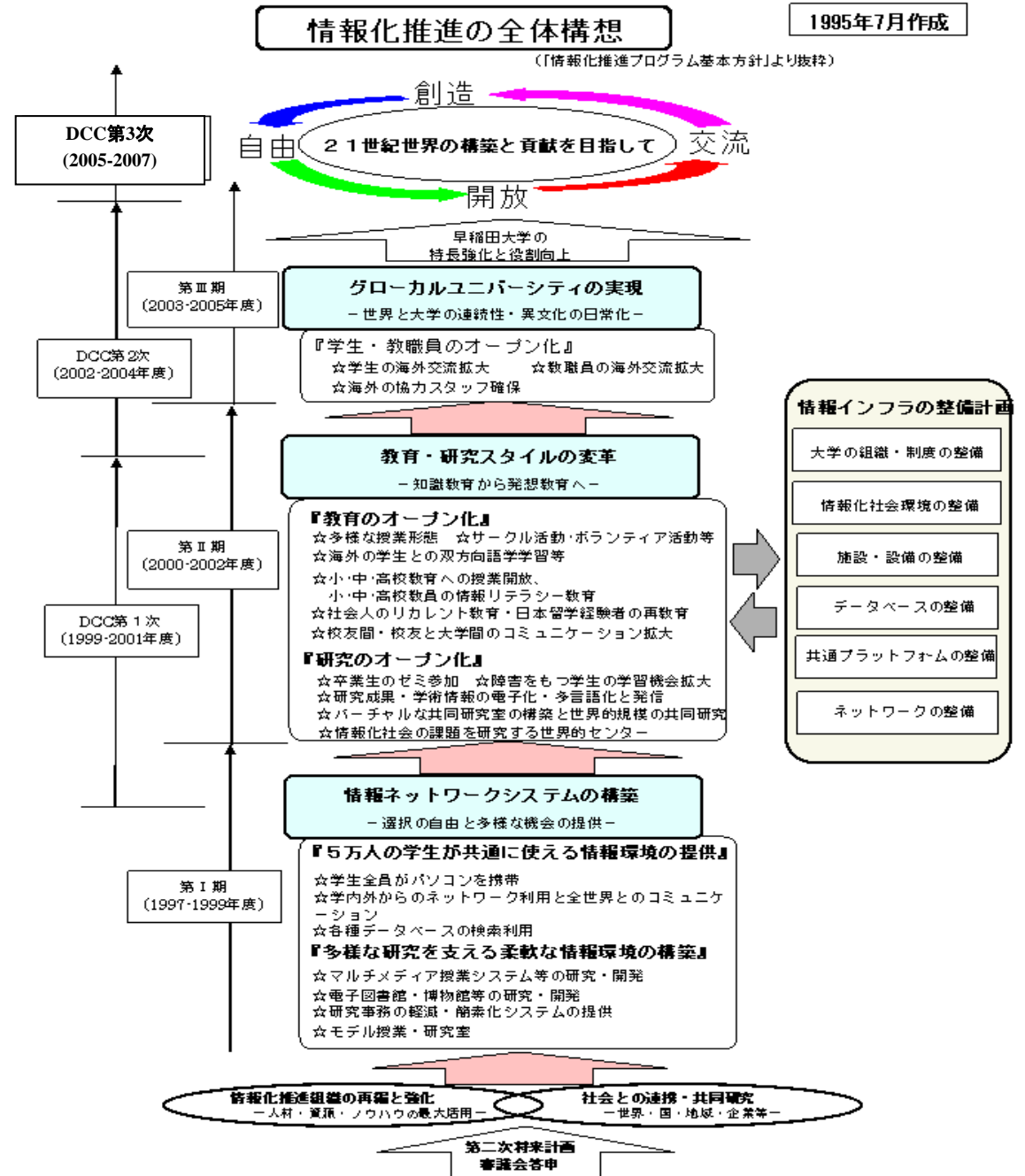
# 情報化戦略の必要性

- 軸がぶれないための情報化の憲法  
（基本ポリシー）
- 教員／職員合同による懇談会
- ベンダーやコンサルタントによる外部知識の導入
- 最終的には情報化部門の職員が中心に策定



「情報化推進プログラム」の策定

# 情報化推進 プログラム (1997-2005) 全体構想



# 情報化推進プログラム(2006-2014)

できるだけ早く  
世界Top 100、アジアTop 10の大学に

- 3つの視点からそれぞれの方策を構築
  - (1)満足度の向上
    - ⇒ 学生さらには社会のための大学づくり
  - (2)教育・研究プロセスの再構築
    - ⇒ 教育・研究の活性化
  - (3)学習し成長する組織体制の再構築
    - ⇒ 教育・研究支援体制の高度化



# 情報化推進プログラム(2006-2014)

3つの視点ごとに、1期3年×3期の目標を策定

第Ⅰ期(2006-2008年度)

「いつでもどこでも安心して学べる環境の提供」

第Ⅱ期(2009-2011年度)

「社会と連携した多様な教育・研究の提供」

第Ⅲ期(2012-2014年度)

「世界レベルの教育・研究の提供」

# 情報化推進プログラムの全体構想

アジア太平洋地域における  
「知の共創」を目指して

地球市民の育成  
(模範的国民の造就)

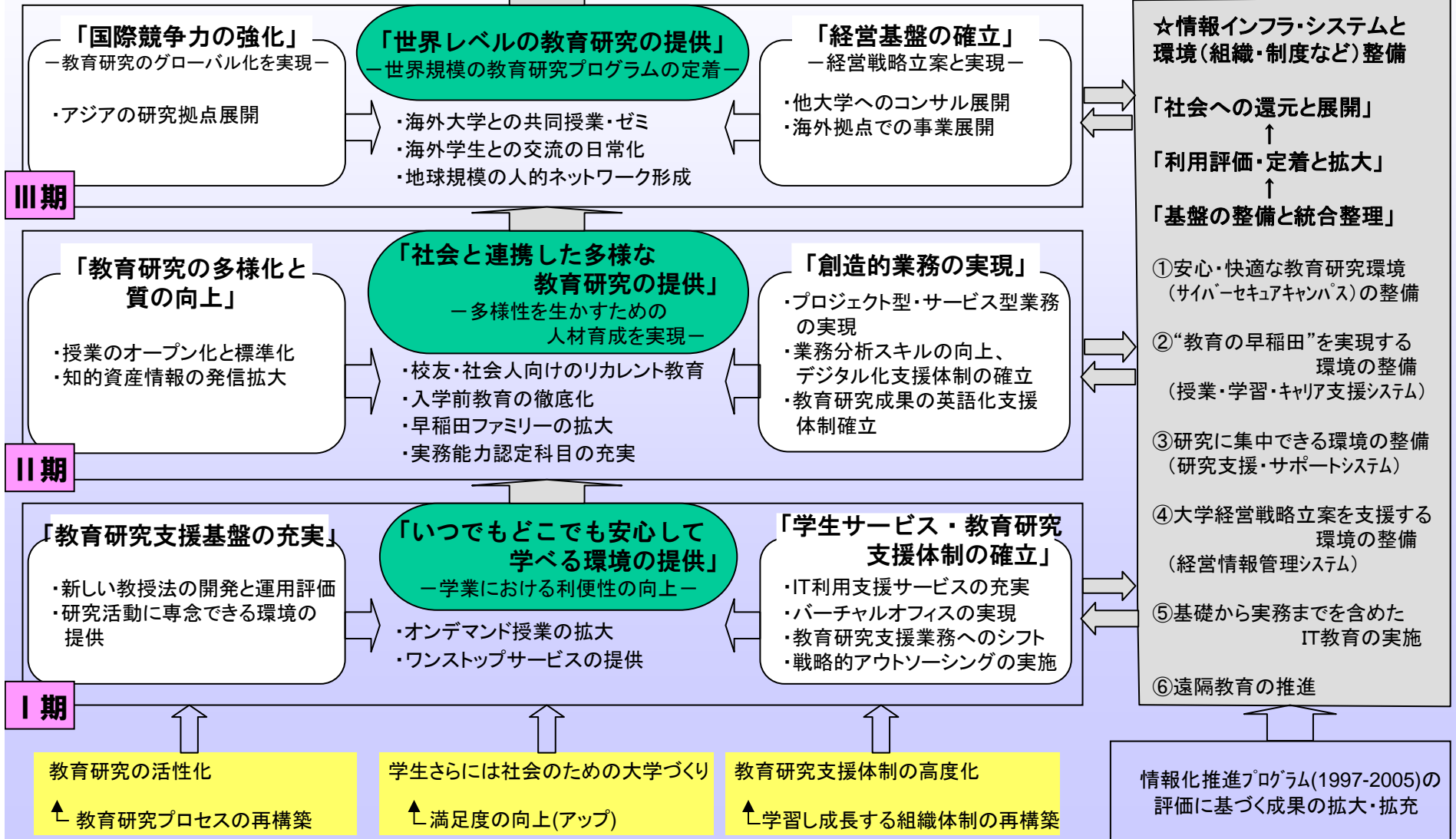
21世紀における建学の  
理念を実現

独創的な特色のある  
教育研究の確立  
(学問の独立)

全学の生涯学習機関化  
(学問の活用)

国際化・学外連携  
を視野に入れた情報化推進

情報化社会にマッチした  
教育研究を支援するIT環境の提供



# 情報化推進プログラム(2006-2014)

## ・ 情報化推進プログラム 実施計画6つの柱

1.安心・快適な教育研究環境(サイバーセキュアキャンパス)の整備

2.“教育の早稻田”を実現する環境の整備(授業・学習・キャリア支援システム)

3.研究に集中できる環境の整備(研究支援・サポートシステム)

4.大学経営戦略立案を支援する環境の整備(経営情報管理システム)

5.基礎から実務までを含めたIT教育の実施

6.遠隔教育の推進

# 情報化推進プログラム(2006-2014)

## • 実施計画1 《サイバーセキュアキャンパス構築》

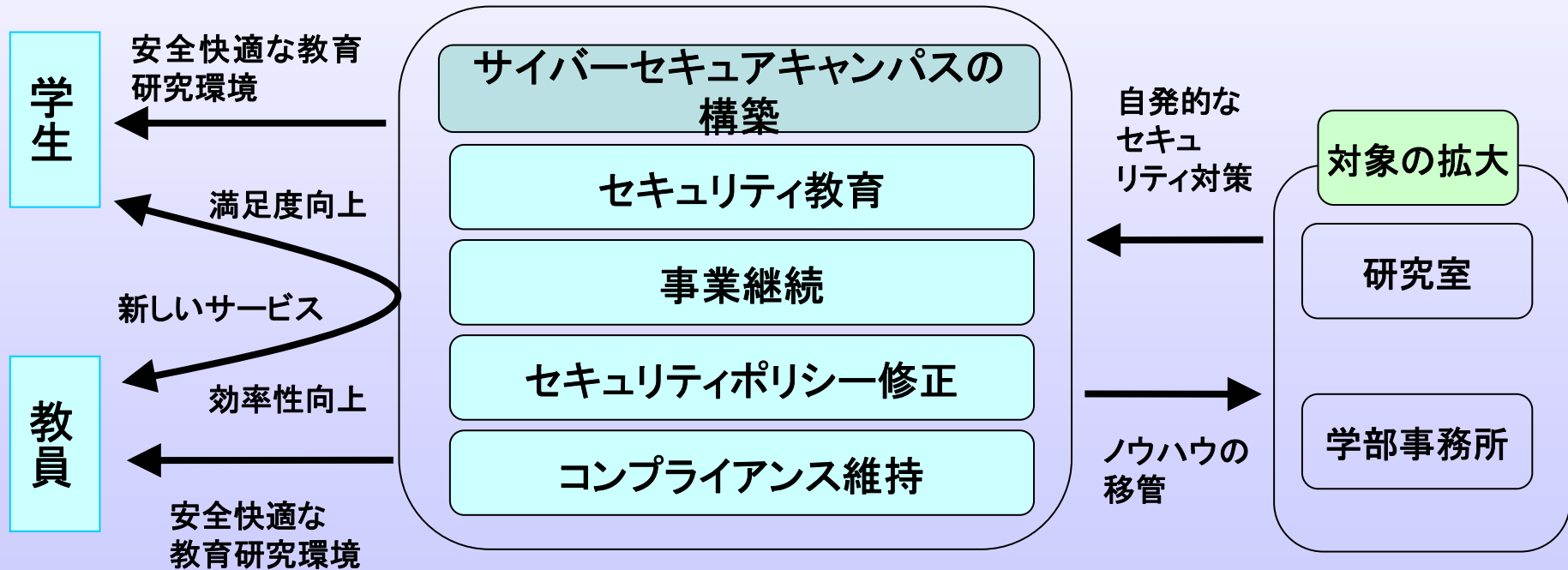
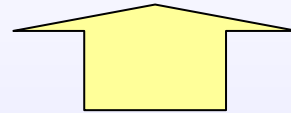
安心・快適な教育研究環境基盤(サイバーセキュアキャンパス)の提供

- 情報資産の機密性・完全性・可用性を  
保証するためのルールやモデルの確立
- 教育・研究・経営を支える基盤システム、  
情報関連施設およびインフラの整備
- 利用者支援・運用管理体制の充実化

# サイバーセキュアキャンパス構築

教育研究の高度化

教育研究の国際化



# 情報化推進プログラム(2006-2014)

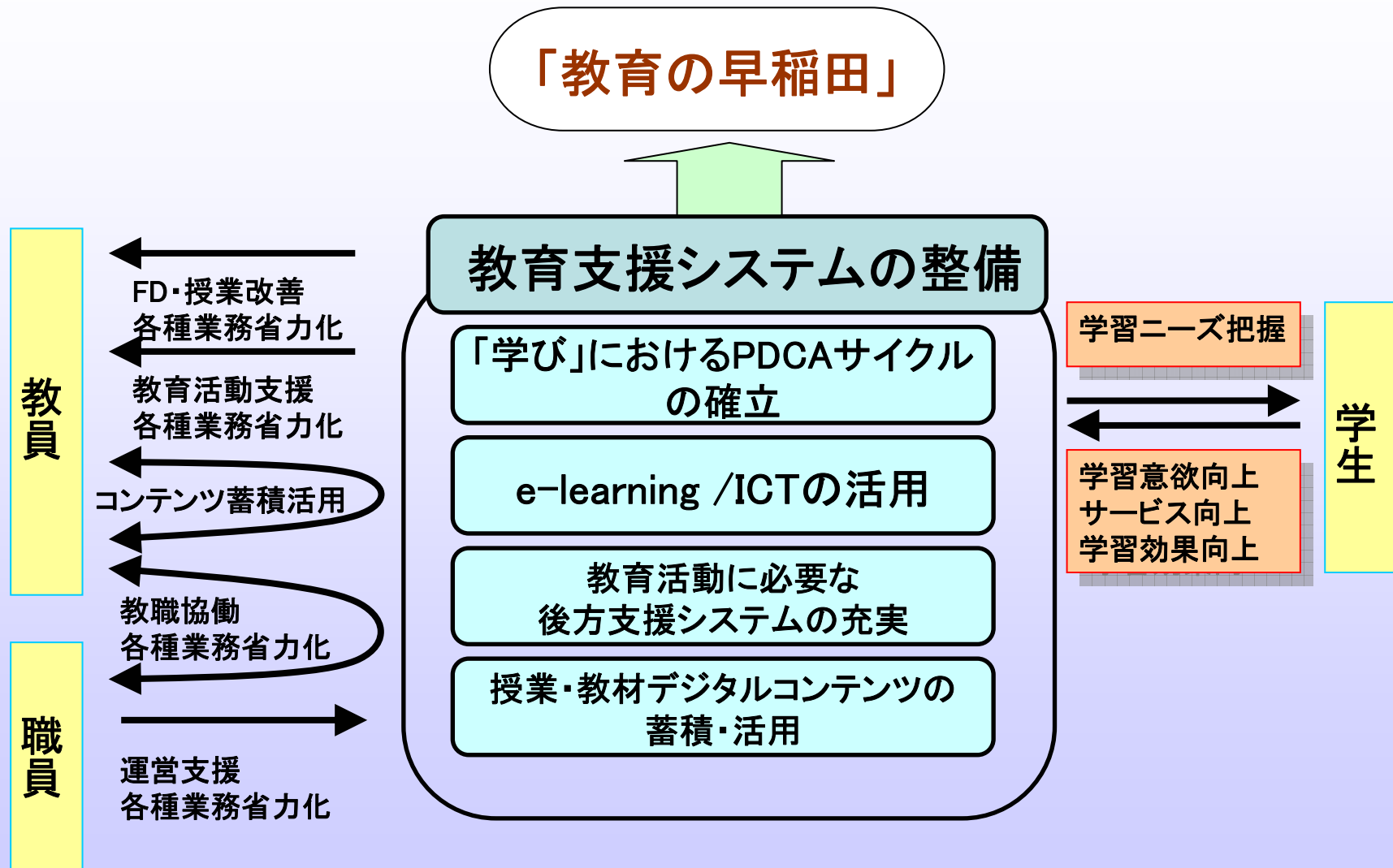
- 実施計画2《教育支援システム》

## ”教育の早稲田”の実現

- ・学生、教員に「教育用電子ワークスペース」機能を提供し、教材・講義ノートなどの共有化・情報発信、論文・レポートなど学習成果の蓄積(学習ポートフォリオ)・評価などを促進する「知の共創空間」を構築

# 教育支援システム

「教育の早稲田」



# 情報化推進プログラム(2006-2014)

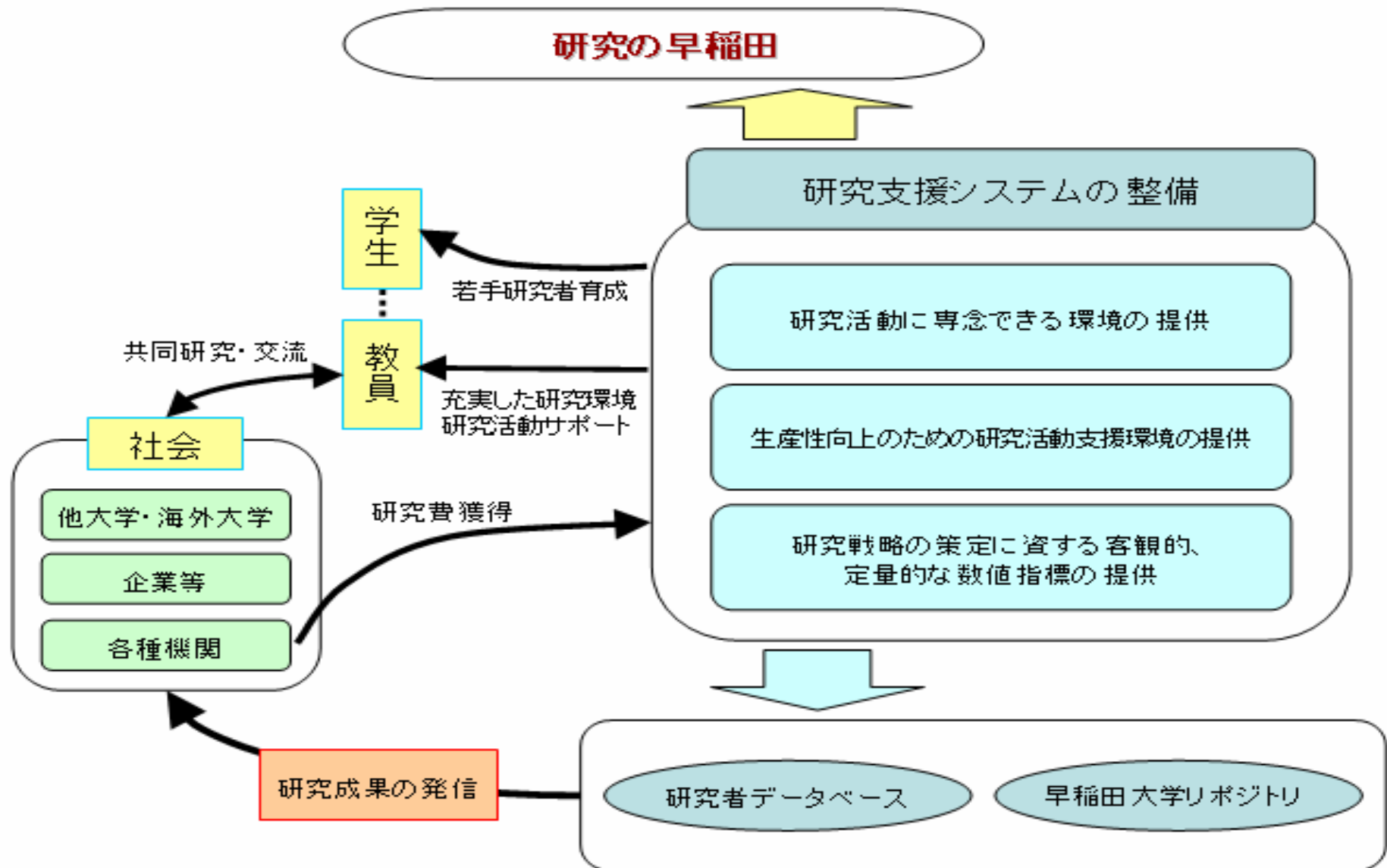
- 実施計画3《研究支援システム》

## 研究に集中できる環境の整備

- ・研究のライフサイクルすべてに渡る支援
- ・若手研究者も含め知的資産である個々の研究成果を全員の資産として共有できる「研究用電子ワークスペース」機能を提供し、学際的な研究や横断的なプロジェクト型の共同研究をより一層活性化



# 研究支援システム



# 情報化推進プログラム(2006-2014)

- 実施計画4《経営情報システム》

## 大学経営戦略立案の支援

- ・教育研究活動を数量的に把握し、経営情報の多角的分析に役立つ経営情報統合管理システム
- ・管理運営型の業務からプロジェクト型・サービス型の業務への重点シフト
- ・多様な業務に対応するための人材育成プログラムの充実化

# 経営情報システム

## 新新財務システムの導入

- ・決裁・承認手続きの迅速化・透明化
- ・事業別予算

## データ調査・分析

- ・各箇所に点在しているデータの調査・分析

## 早稲田ファミリーデータベース作成

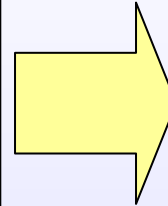
- ・大学との連携強化に向けて

## 職員人材情報データベースの構築

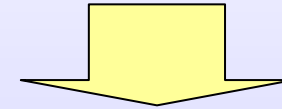
- ・職員人材有効活用のための情報把握

## 建物カルテ作成

- ・戦略的なファシリティマネジメント



戦略的な大学運営を  
推進するための基盤  
整備



改善提案、情報公開、  
経営構造改革を実現  
する仕組みづくり

# 情報化推進プログラム(2006-2014)

## ・ 実施計画5 《情報教育》

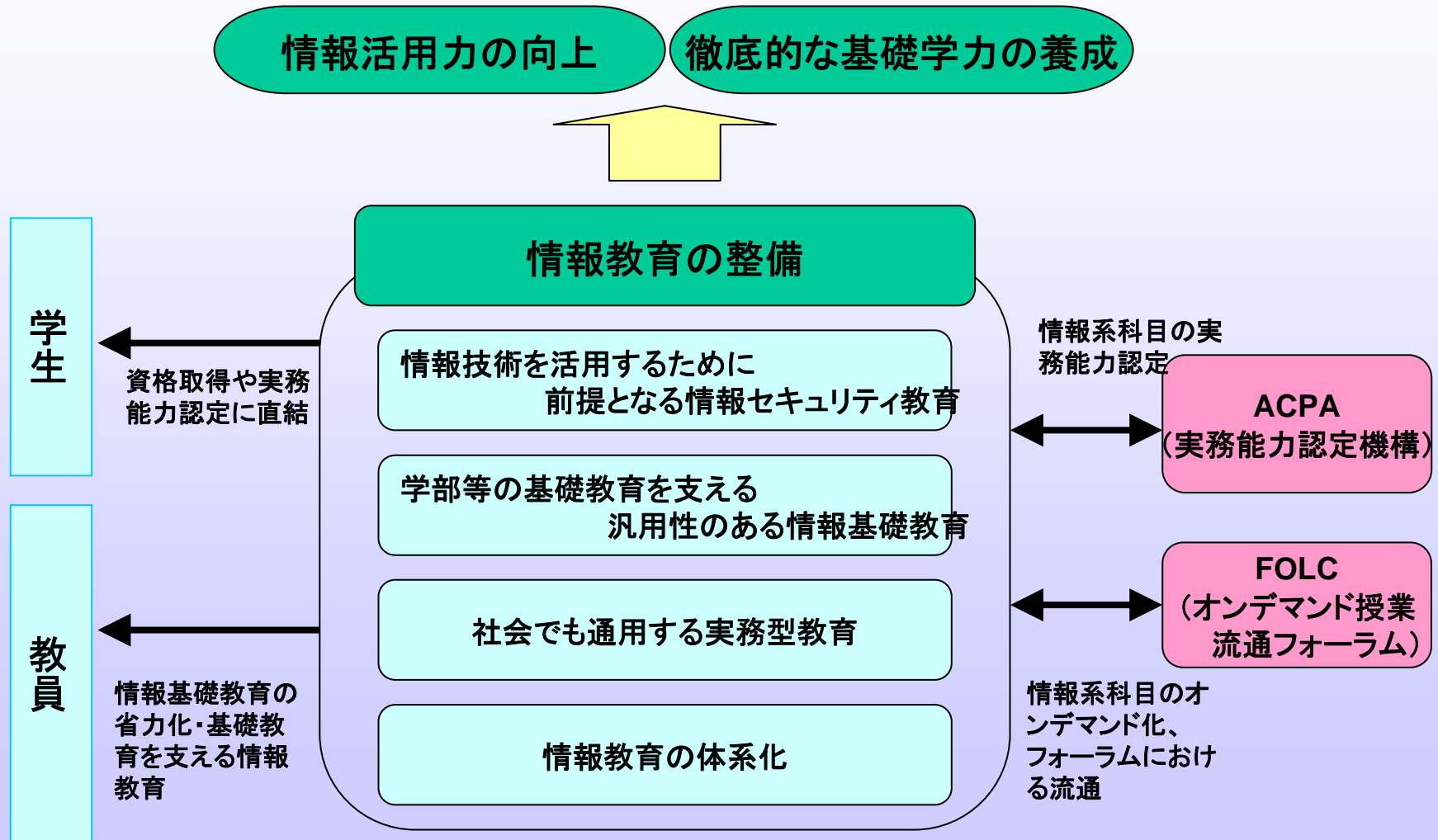
### 基礎から実務までを含めたIT教育の実施

- ・ 学部等の徹底した基礎教育を支えるための汎用性のある情報基礎教育の実施
- ・ 可用性・機動性をもち、最新の情報にアップデートできる科目の提供
- ・ 電子化された「知」の取り扱いを内容とする情報リテラシー教育
- ・ 体系的なICT教育に対応した科目の設置
- ・ 実務能力養成につながる科目の設置

# 情報教育

情報活用力の向上

徹底的な基礎学力の養成



# 情報化推進プログラム(2006-2014)

## • 実施計画6《遠隔教育の推進》

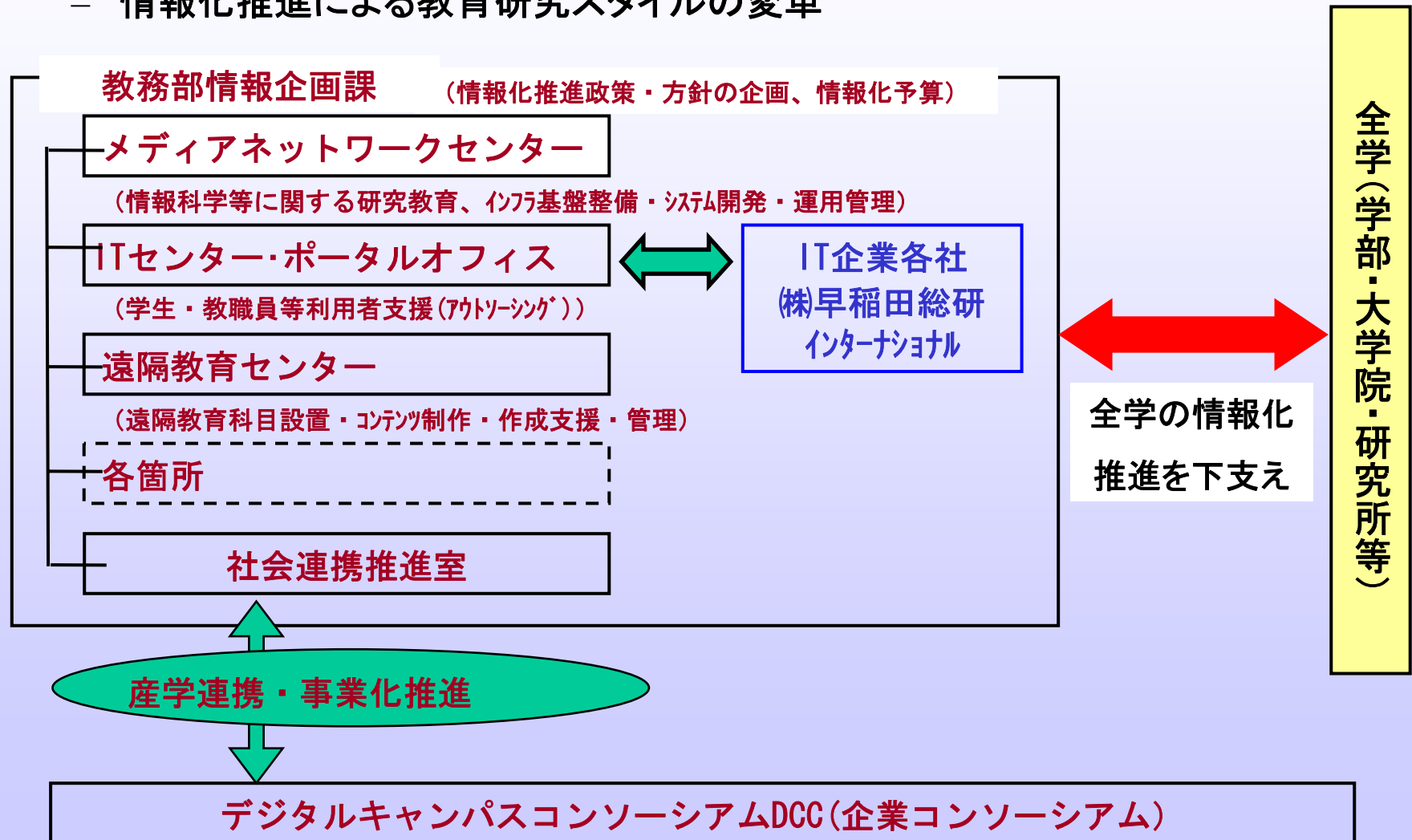
### e-learningの活用

- 授業支援システム (Course N@vi)
- 学生ポートフォリオ
- キャリアナビゲートシステム
- 基礎科目のリメディアル教育 (例えば、数学・統計等)
- 日本語文章作成能力育成、アカデミックライティング、アカデミックリテラシー
- MNC科目の全学共通副専攻化
- SNS型のコミュニティ (例えば、教育クリニック)
- 資格科目のオンデマンド化
- 国際化 (CCDL、留学準備講座等)
- 国際連携 (海外への日本語教育)
- 実務型の生涯学習教育 (例えば、FOLC)

# 情報化推進プログラム(2006-2014)

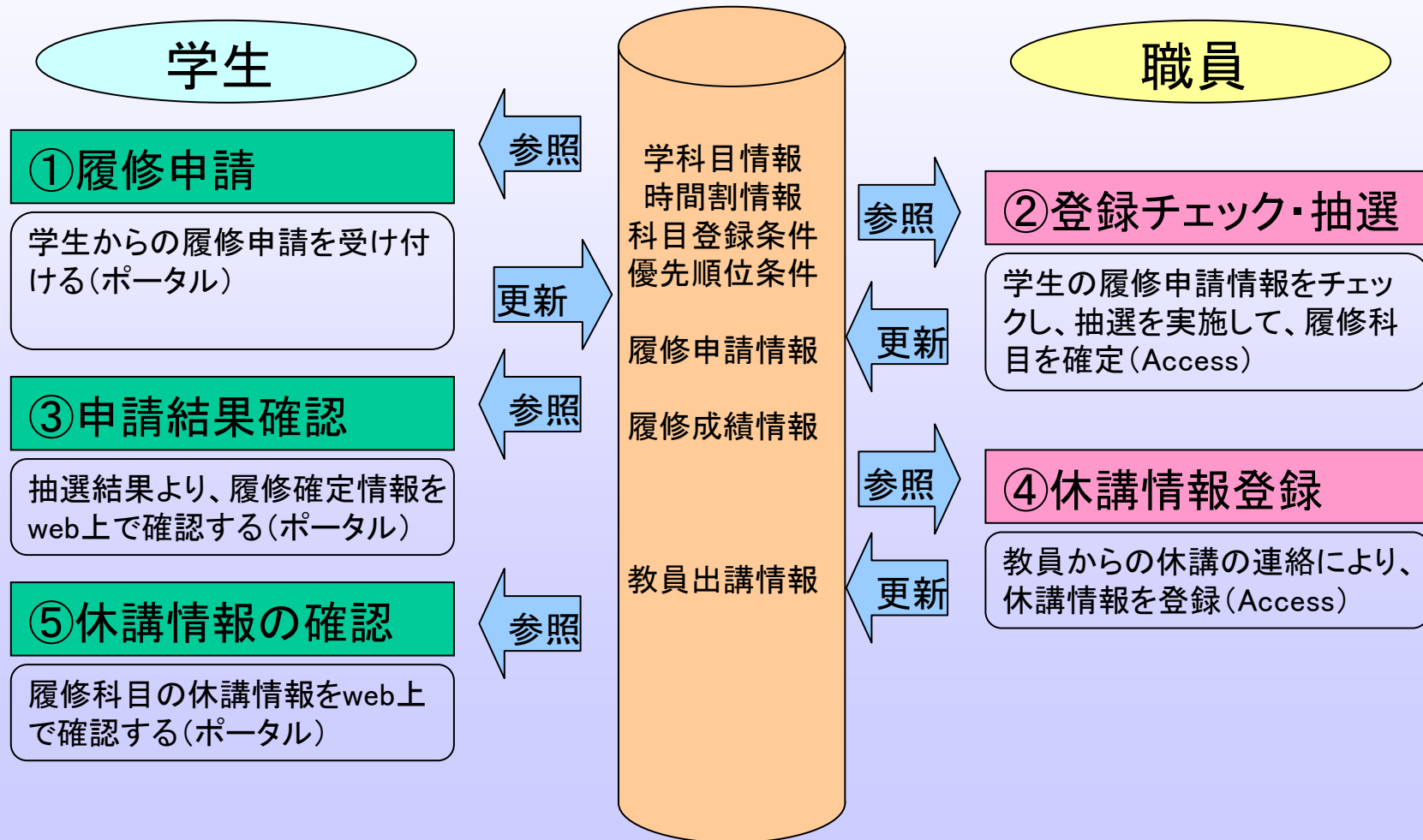
## • 情報化推進体制

– 情報化推進による教育研究スタイルの変革



# 情報化の現状① 事務系システム

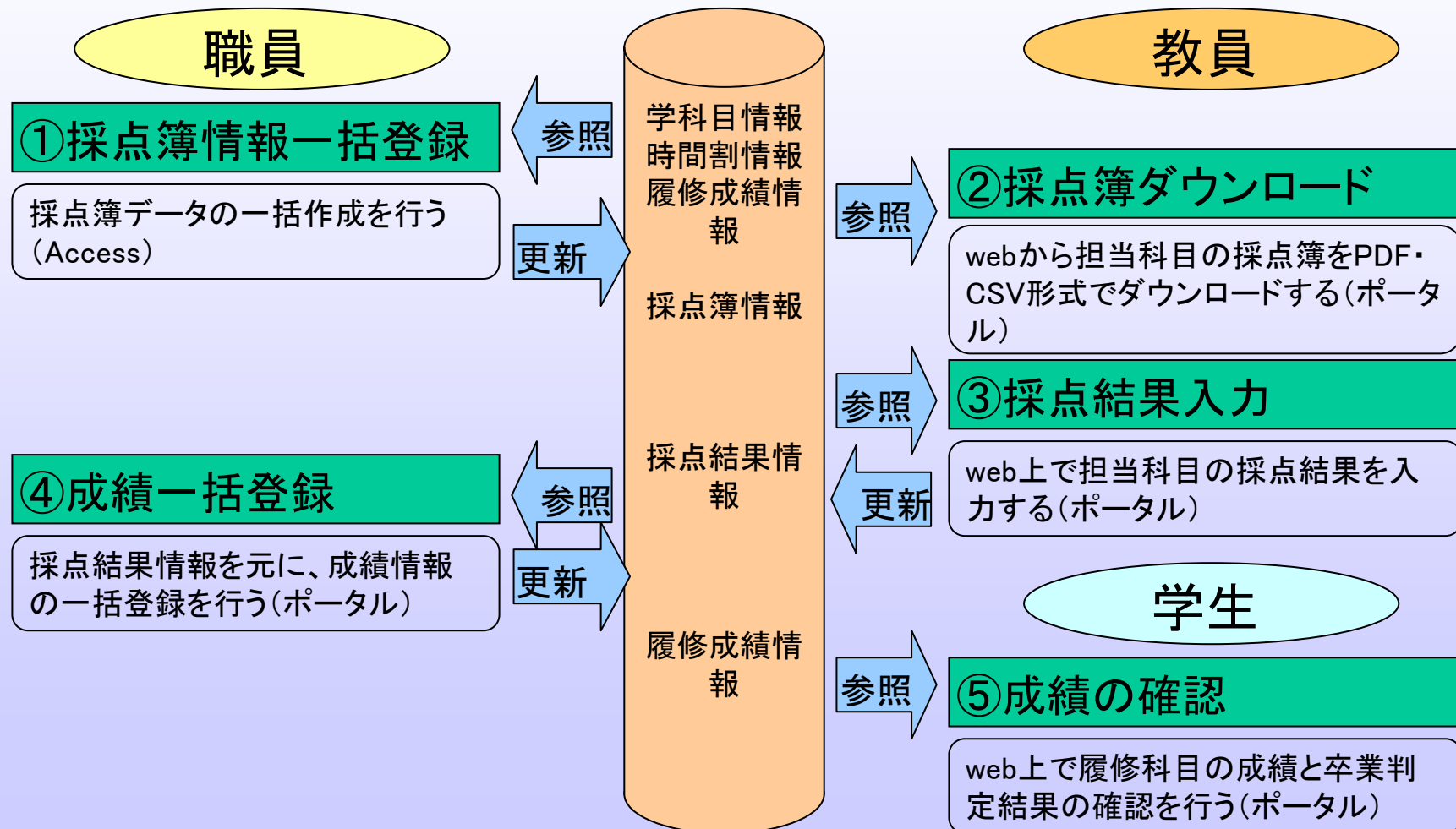
## • 教学支援システム(履修サービス)





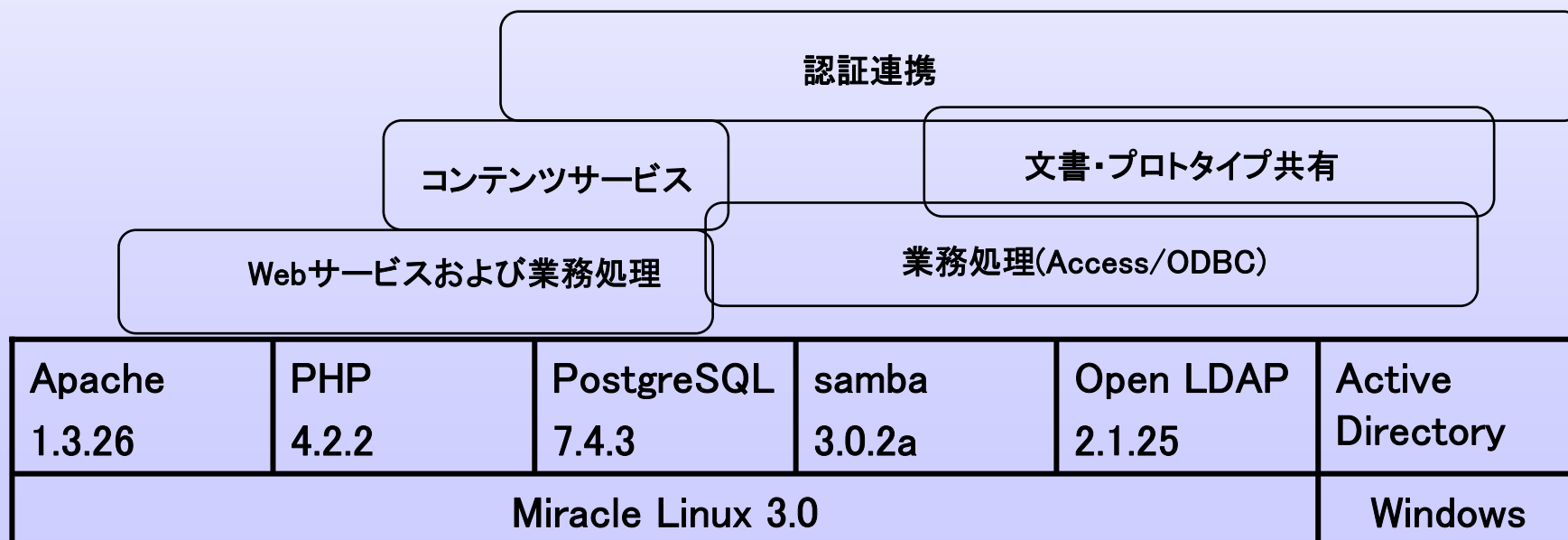
# 情報化の現状① 事務系システム

## • 教学支援システム（成績サービス）



# 情報化の現状① 事務系システム

- ・ OSSを選定するに至った理由
  - 大学事務システム公開とその普及を推進するための基盤として
  - 先進的技術の導入と多様なサービスを実現するためのミドルウェアとして
  - 限られた資源(コスト)での情報化推進と大学改革実現のために



## 情報化の現状② Waseda-netポータル

- One Stopサービスの実現を目指して
  - 情報の一元的な提供
  - Web上で可能なあらゆる情報の交換が行われる場
  - 情報の集約と一元的な提供へ
  - 情報への到達容易性
  - 情報を種類によって整理
  - Single Sign Onによるサービス連携

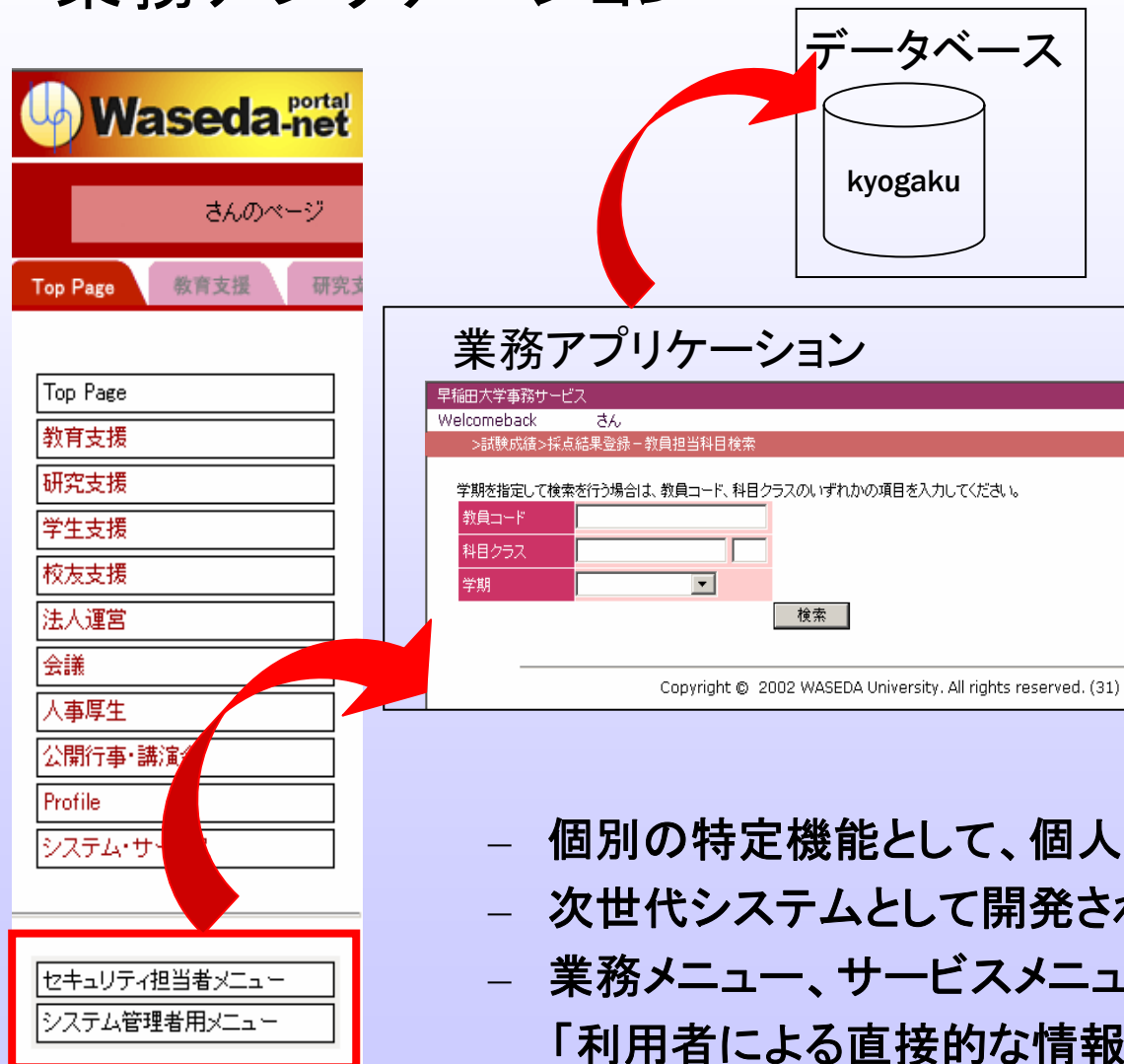


Waseda-net ポータルは大学関係者  
共通のプラットフォームとして  
そして、大学トップページ、箇所Webサイトは  
広く社会に向けて情報を発信

一度の認証で、どのサー  
ビスにも到達できる  
= Single Sign On

# 情報化の現状② Waseda-netポータル

## ・ 業務アプリケーション



- 個別の特定機能として、個人別に提供される業務メニュー
- 次世代システムとして開発された教務事務システム
- 業務メニュー、サービスメニューとデータベースを結び「利用者による直接的な情報操作」を実現

## 情報化の現状③

# CourseN@vi

(正式名称: Waseda-Net CourseN@vi)



The screenshot shows the CourseN@vi web application interface. The main content is a table listing courses with columns for course name, year, semester, credit hours, location, and instructor. The table includes various courses such as '現代の文学と文化', 'Course M@vi', and 'ロードランナー-評価用01' through '04'. The interface also features a navigation menu on the left and a search bar at the top.

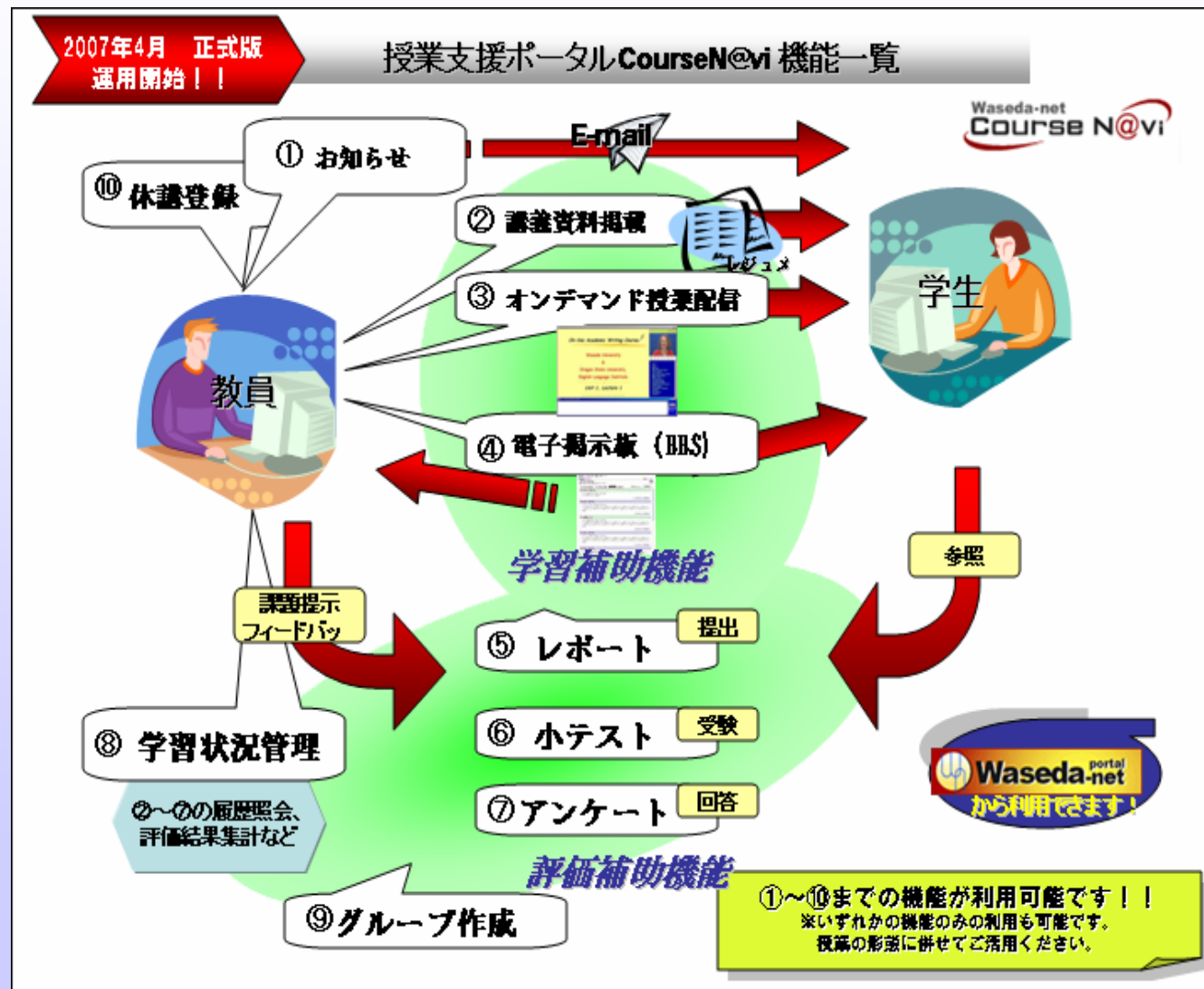
科目名	年度	学期	曜日時間	設置場所	属性
現代の文学と文化	2007	通年		255	科目/担当教員
Course M@vi	2006	通年		一文	科目/担当教員
授業支援ポータル-機打90	2006	通年		255	科目/担当教員
情報と職業 01	2006	通年		255	科目/担当教員
ロードランナー-評価用01	2006	通年		255	科目/担当教員
ロードランナー-評価用02	2006	通年		255	科目/担当教員
ロードランナー-評価用03	2006	通年		255	科目/担当教員
ロードランナー-評価用04	2006	通年		255	科目/担当教員
X O 4	2005	通年		255	科目/担当教員
基礎講義 (新)	2006	通年		255	科目/担当教員
基礎実習 (新)	2006	通年		255	科目/担当教員
問いをむかひぬり確認	2006	通年		255	科目/担当教員
全教職員 (機打90)	2006	通年		255	科目/担当教員
CourseM@vi デモ1	2007	通年		255	科目/担当教員
CourseM@vi デモ2	2007	通年		255	科目/担当教員
評価科目	2006	通年	土1時間	255	科目/担当教員

## ・コンセプト

- 教員・学生に対し、直接的・双方向的なサービスを提供
- 直感的でわかりやすいインターフェース、HELP機能の充実
- 授業運営管理・オンデマンド授業にとどまらず対面授業でも利用可能な機能を提供
- コミュニケーション促進機能の充実により授業を活性化
- 個人のCyber Work Spaceと完全連動したコンテンツ管理機能と連携
- 学習記録や研究成果の蓄積・保存・公開が可能(教育研究ポートフォリオ)
- ポータル基盤機能や研究支援、学生支援など他システムとのシームレスな連携

# 情報化の現状③ CourseN@vi

- 機能一覧



情報化の現状③

# Course N@vi利用統計

項目	2007/4/14	2007/11/7	2008/7/20
開講科目数	16,051	16,301	16,826
利用科目数	936	1,666	2,411
科目利用率	5.75%	10.22%	14.32%
開講科目担当 教員数	3,662 (1,409)	3,787 (1,428)	3,797 (1,454)
利用教員数	381 (274)	764 (480)	886 (606)
教員利用率	10.4% (19.44%)	20.17% (33.61%)	23.3% (41.67%)

括弧内の数字は、専任教員に対象を限定した場合の数

### 情報化の現状③

## 全期間のユニークID数および 1ID当たりのログイン回数

利用資格	利用ID数	累計ログイン回数	1ID当たりのログイン回数
教員	1,880	142,688	75.90
専任職員	684	36,390	53.20
学生	54,815	2,980,590	54.38
非専任職員 <sup>[1]</sup>	987	106,025	107.42
学外者 <sup>[2]</sup>	4,784	86,669	18.12

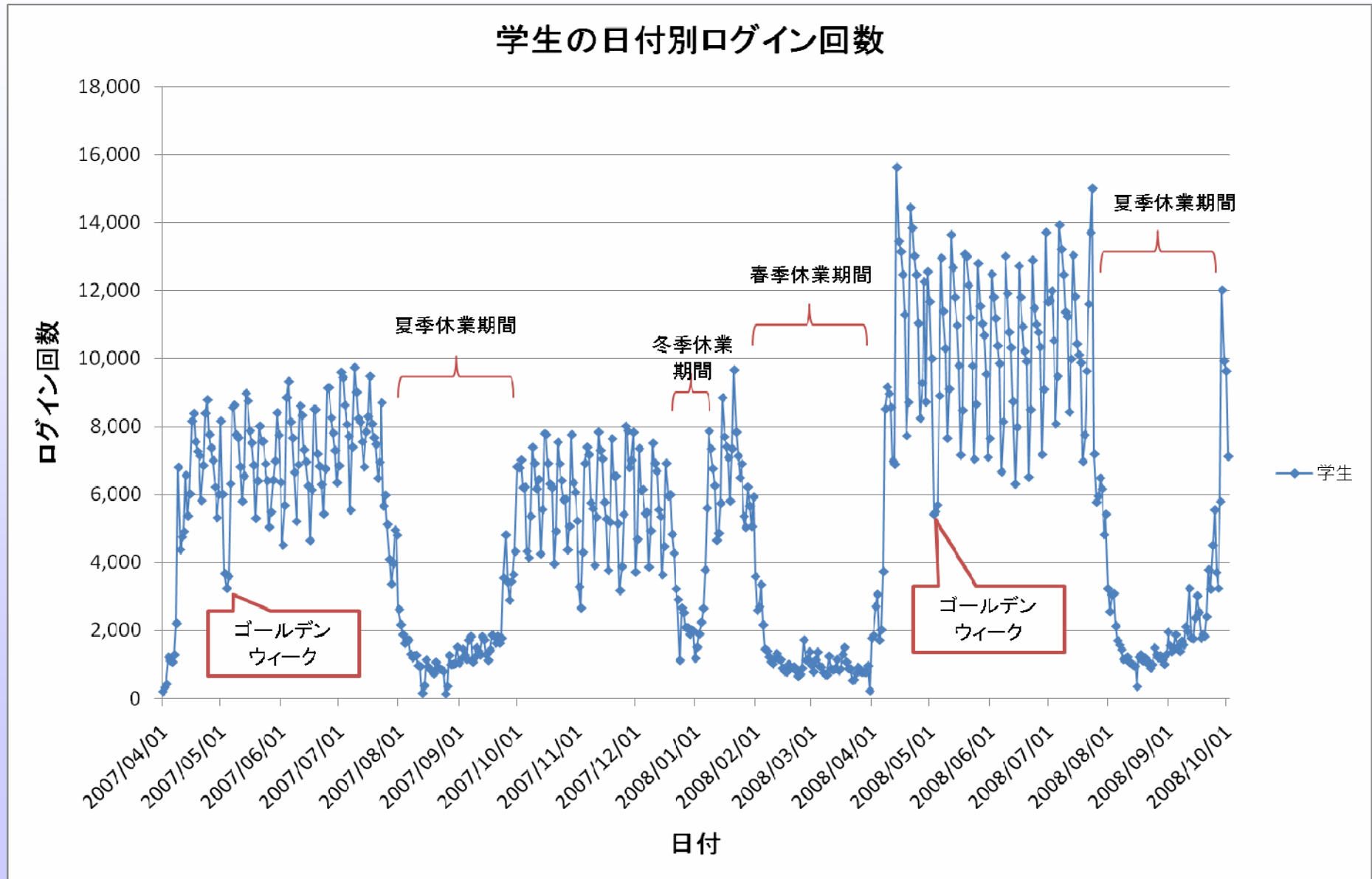
[1] 非専任職員, TA等を含む

[2] 単位互換制度を有する他大学の学生等を含む



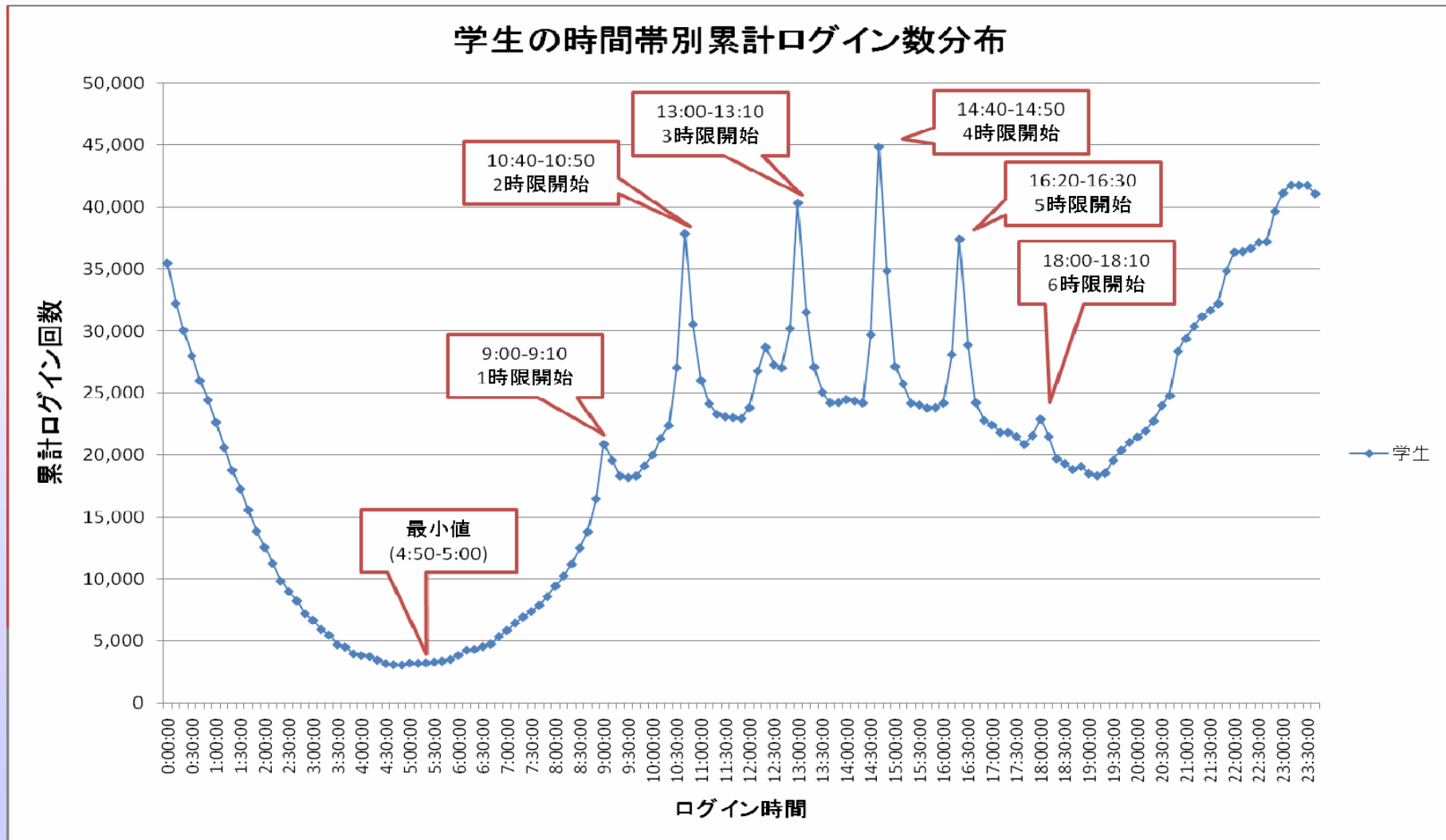
### 情報化の現状③

# 日付別学生IDログイン回数



### 情報化の現状③

# 学生の時間帯別ログイン数分布



1日を10分間隔で区切り, それぞれの時間帯における対象期間内のログイン回数を数えあげたもの

# 情報化の現状④ オンデマンド授業

- ・ インターネットオンデマンド方式(2001年度～)
  - デジタル通信網の発達により、高品質コンテンツをインターネット配信可能に(回線費用・運用コスト削減)
  - 大学設置基準改正により、学生が、いつでも、どこからでも、オンデマンド授業に参加することが可能に
  - 教育コーチ(メンター)の活躍 によってBBSを有効活用し、授業のテーマについて議論を深めていくとともに、きめ細かい個別指導を実現
  - LMSの改良(学習履歴管理・お知らせ/メール機能・小テスト/レポート/アンケート機能、etc)

## 【オンデマンド授業科目数および受講者数の推移】

年度	科目数	延べ受講学生数
2001	7	926
2002	17	2,062
2003	125	13,508
2004	231	16,436
2005	389	26,551
2006	468	24,383
2007	857	30,529

人間科学部  
通信教育課程  
(eスクール)開設

初の卒業生 53人  
うち大学院進学17人  
(4年間で40%修了)

# 情報化の現状④ オンデマンド授業

## ・ 人間科学部通信教育課程(1/3)

### － eスクールの学科構成

- ・ 人間環境科学科、健康福祉科学科、人間情報科学科の3学科
- ・ 学科構成は、通学制と全く同一

#### 人間環境科学科

人間と環境の関わりを、周辺分野を学際的に学ぶことにより、持続可能な社会構築の方策を探る

#### 人間情報科学科

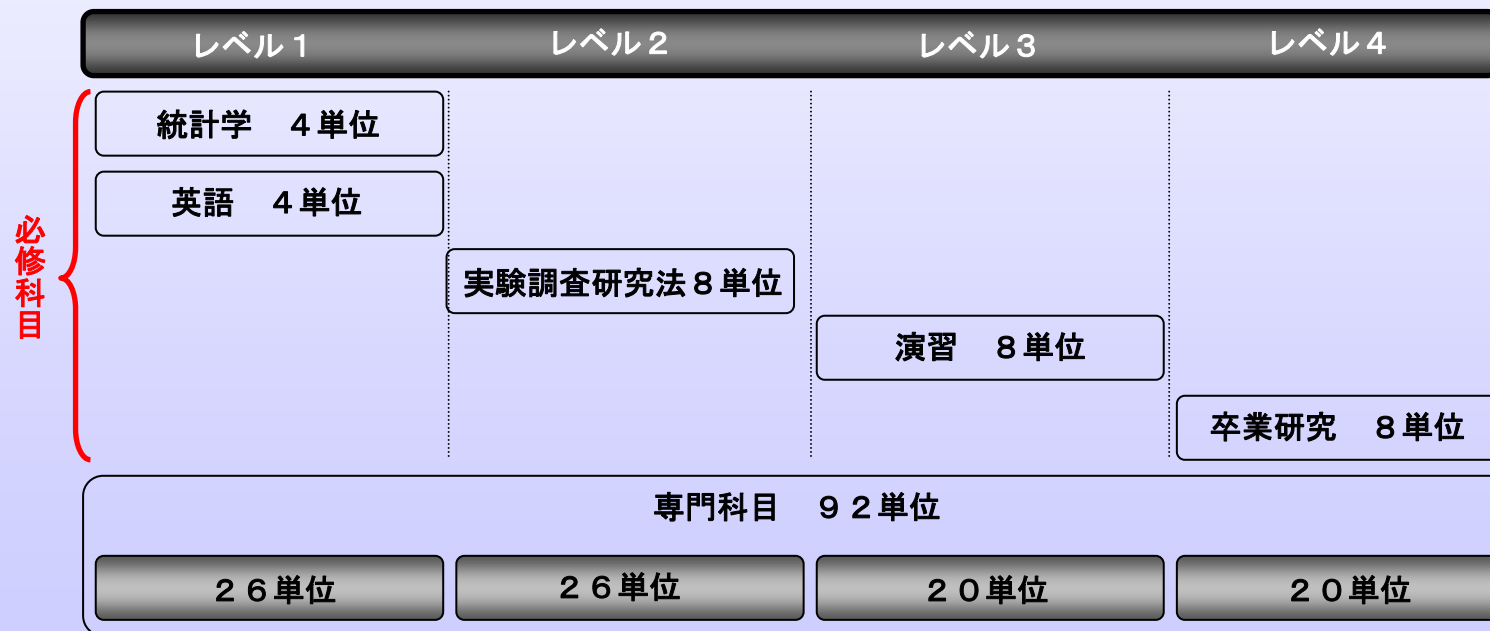
技術を人間の側から捉え、情報があるべき社会構築に生かすというスタンスで、教育・研究を行う

#### 健康福祉科学科

技能としての福祉だけでなく、医学、工学、教育学、心理学など、多岐に渡る総合的な福祉研究を行う

# 情報化の現状④ オンデマンド授業

- 人間科学部通信教育課程(2/3)
  - 単位について 年間最高履修単位数 … 40単位が上限
  - カリキュラム編成 ※「レベル」は、通学制の学年にあたる



※ 取得可能資格：高等学校第1種教員免許状「情報」

# 情報化の現状④ オンデマンド授業

## ・ 人間科学部通信教育課程(3/3)

授業年度	科目数
2003年度	43科目
2004年度	87科目
2005年度	195科目
2006年度	283科目
2007年度	439科目

### - 主な科目内容

共通科目 … 統計学Ⅰ、統計学Ⅱ、英語Ⅰ、英語Ⅱ

専門科目 … 地域・地球環境論、環境情報科学、環境管理計画学、里山保全論、建築人間工学、職業社会学、ライフコース論、異文化間教育論、動機づけ理論、コミュニケーション論、ピラミッド文明論、ドイツ社会文化論、フランス文化論、憲法、心理医学、行動療法、認知行動療法、発達生物学、エルゴノミックス、健康福祉産業工学、福祉レクリエーション論、免疫学、社会保障論Ⅰ、インストラクショナル・デザイン、ウェブデザイン、教育メディア科学、情報処理心理学、教授学習過程論、基礎心理学、生活支援工学、情報科教育法、教師学概論、教育原理Ⅰ、et  
c

情報化の現状⑤  
ネットワーク型外国語学習プログラム

• グローバルリテラシー教育の実施

訓練

**STEP1: チュートリアル英語学習プログラム**

- 基本的コミュニケーションスキルの獲得
- 少人数レッスン(1人のチューターに4人の学生)
  - ・ 「話さざるをえない」環境の構築

**STEP2: CCDLプログラム**

- 共通の外国語(英語・中国語・ロシア語など)を用いた国際コミュニケーション能力実践的向上の場
- 海外提携大学との共同ゼミ(2003年度20カ国43大学)

**STEP3: サイバーゼミ・サイバーレクチャー**

- テレビ会議システムを利用し、より専門的なテーマを扱ったリアルタイム双方向の遠隔講義・共同ゼミ

実践

# 情報化の現状⑤ ネットワーク型外国語学習プログラム

## ・ STEP1:チュートリアル英語学習プログラム

4人1組の少人数レッスンによる  
徹底したコミュニケーション能力の養成

- 10週間(週2回 計20回)の少人数 チュートリアルレッスン
- TOEIC-IP試験で8割以上の受講者がスコアアップ
- 学習目的別(GENERAL COURSE , BUSINESS COURSE)、レベル別(初級・中級・上級クラス)のクラス編成



-レッスン以外にも、学生ごとの「Can-Do List」や「Final Review Sheet」による、チューターからのきめ細かい個別指導の実践

-成果測定テスト“**WeTEC**”の開発

- 2004年度受講者数 約 8,300名
- 2005年度受講者数 約 9,500名
- 2006年度受講者数 約 9,500名
- 2007年度受講者数 約 8,200名





# 情報化の現状⑤ ネットワーク型外国語学習プログラム

## STEP2:CCDL (Cross-Cultural Distance Learning) プログラム

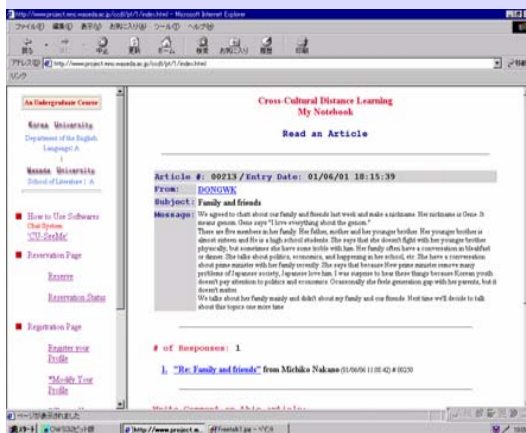
### オンライン・チャット(同時双方向性)、異文化交流

- 海外提携校のパートナーと週最低1回(45分程度)のリアルタイムオンラインチャット(テキストチャット、音声チャット)
- 時事問題・流行・生活習慣・大学生活・文化・スポーツ・教育・宗教・伝統・社会的価値観など多様なテーマについて意見を交換



- バックグラウンドの異なる相手との相互理解を得る努力
  - 表現能力の獲得
  - 平均発話量 (MLU: Meaning Length of Utterance) の向上

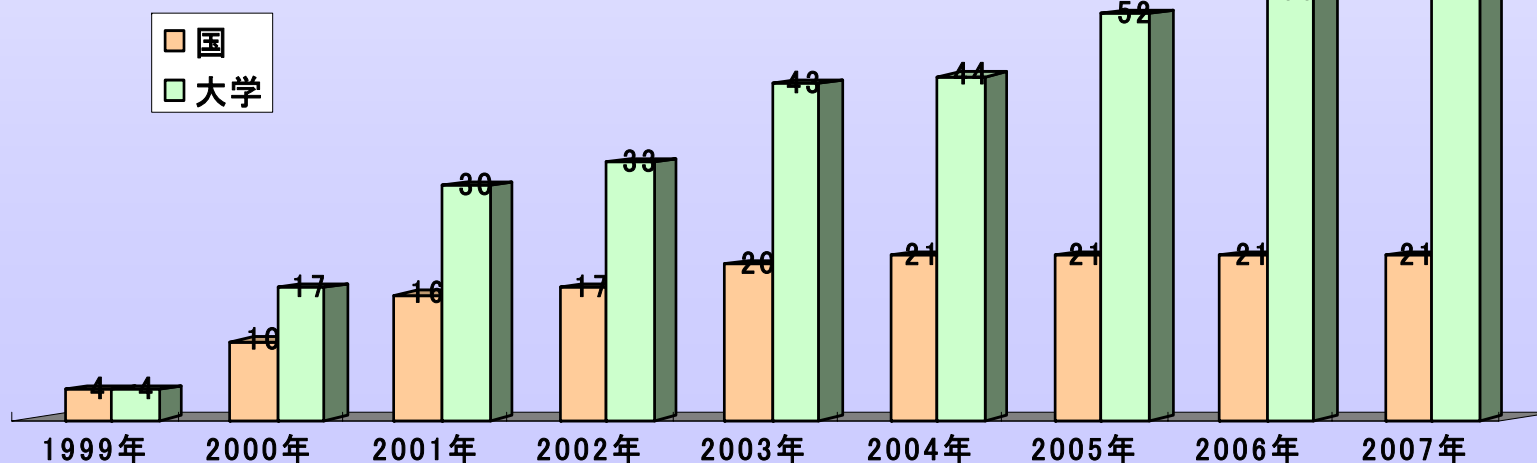
- 2005年度受講者数: 3416名(早稲田: 2235、海外: 1181)
- 2006年度受講者数: 5305名(早稲田: 3211、海外: 2094)
- 2007年度受講者数: 6378名(早稲田: 3379、海外: 2999)



# 情報化の現状⑤ ネットワーク型外国語学習プログラム

- CCDL – Cross-Cultural Distance Learning
  - 海外提携大学との協力：参加大学の推移

年度	相手国	大学数	学生数(延べ)
2001	16	30	1,585
2002	17	33	3,339
2003	20	43	3,183
2004	21	44	2,179
2005	21	52	2,235
2006	21	55	3,211
2007	21	61	3,379



# 情報化の現状⑤ ネットワーク型外国語学習プログラム

- STEP3:サイバーゼミ・サイバーレクチャー  
英語で専門分野を学ぶ

テレビ会議システムを利用し、より専門的なテーマを扱ったリアルタイム双方向の遠隔講義・共同ゼミ

- 専門分野におけるディスカッション  
-サイバーゼミ<World Englishes and Miscommunications>

## 参加大学:

チュラロンコン大学  
香港バプティスト大学  
シンガポール国立大学  
文藻外語学院

デラサール大学  
高麗大学  
韓南大学  
早稲田大学

復旦大学  
マラヤ大学  
南ソウル大学

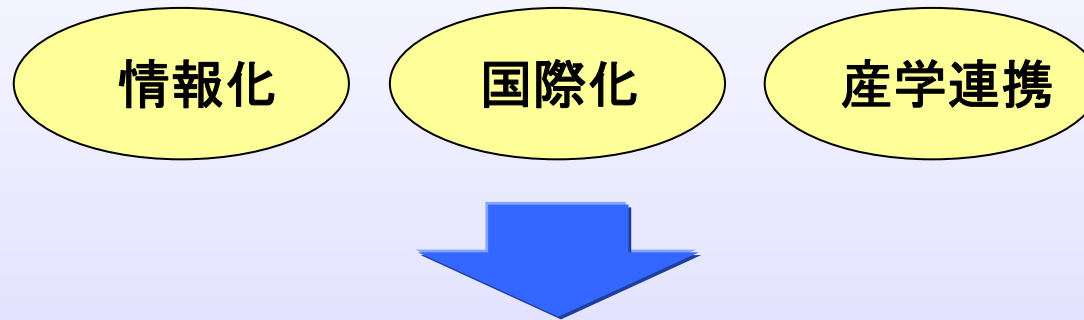


復旦大学とのサイバーゼミの様子

## 産学連携と社会貢献①

# DCC(デジタルキャンパスコンソーシアム)

- ・ e-learningによる大学改革のための  
Digital Campus Consortium (DCC)



- ・ 情報ネットワークを基盤とした、「21世紀の新しい大学モデルの実現」を目標に、高等教育の改革を通して社会の改革に弾みをつける
- ・ 「教育分野の産学共同体」として、Digital Campus Consortiumを組織

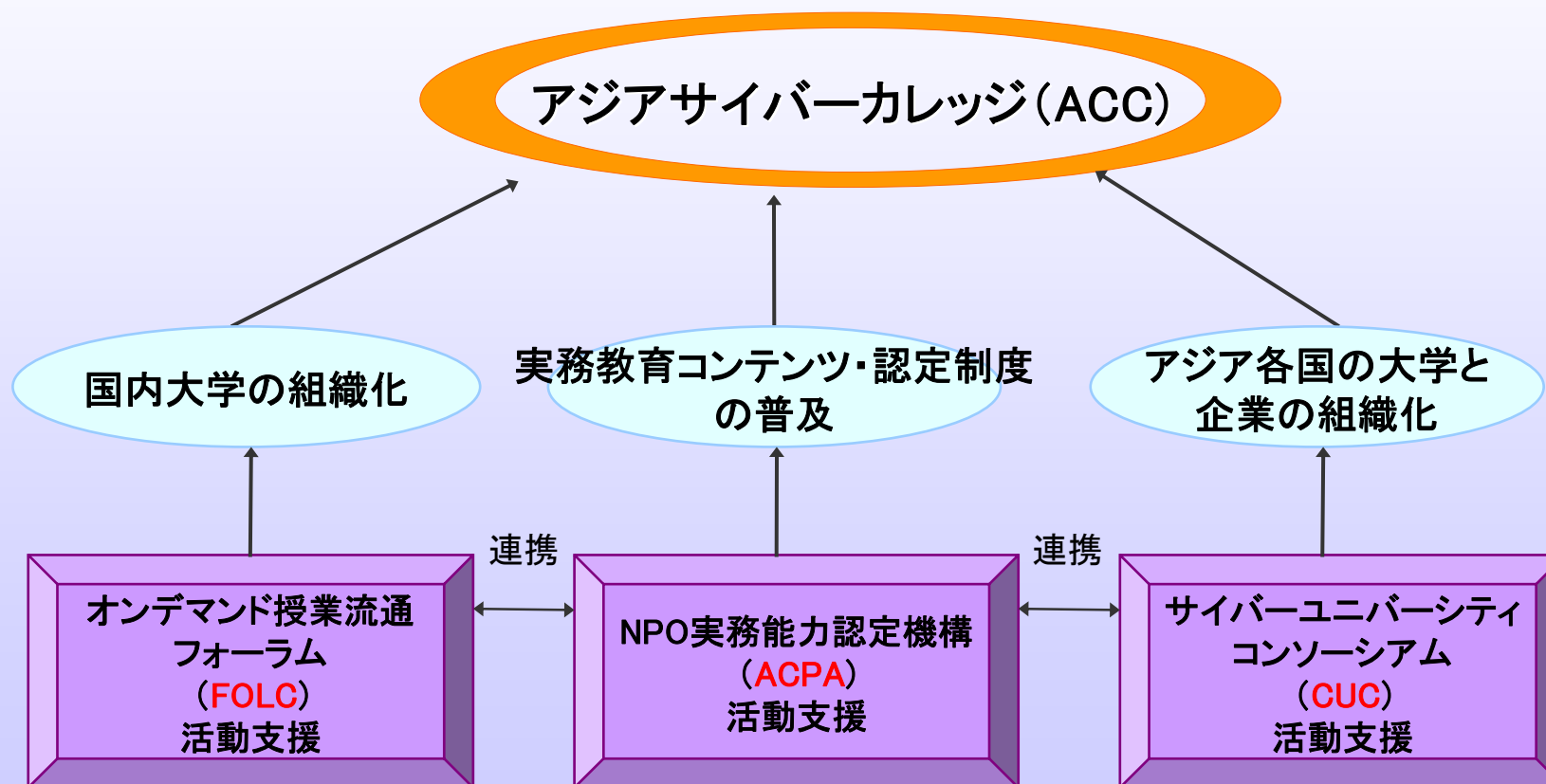
### DCCの特徴： 教育分野の産学連携

これまで産学連携は研究開発分野の事例がほとんどだったが、DCCは「教育分野」における日本では数少ない産学連携組織

## 産学連携と社会貢献①

# DCC(デジタルキャンパスコンソーシアム)

- ・ Digital Campus Consortium (DCC) の目標



## 産学連携と社会貢献①

# DCC(デジタルキャンパスコンソーシアム)

## ・ DCC第1次～第3次活動計画

### 第1次DCC(1999～2001年度)

- ・ネットワーク型授業
- ・海外大学との異文化交流授業(CCDL: Cross-Cultural Distance Learning)
- ・チュートリアル外国語学習プログラム
- ・早稲田大学と会員企業との共同事業会社2社設立  
(早稲田大学ラーニングスクエア(株)、早稲田大学インターナショナル(株))

### 第2次DCC(2002～2004年度)

- ・オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)設立
- ・NPO実務能力認定機構(ACPA)設立
- ・サイバーユニバーシティコンソーシアム(CUC)基礎作り
- ・大学事務システムプロトタイプ無償配布
- ・オープンソースソフトウェア(OSS)研究所設立

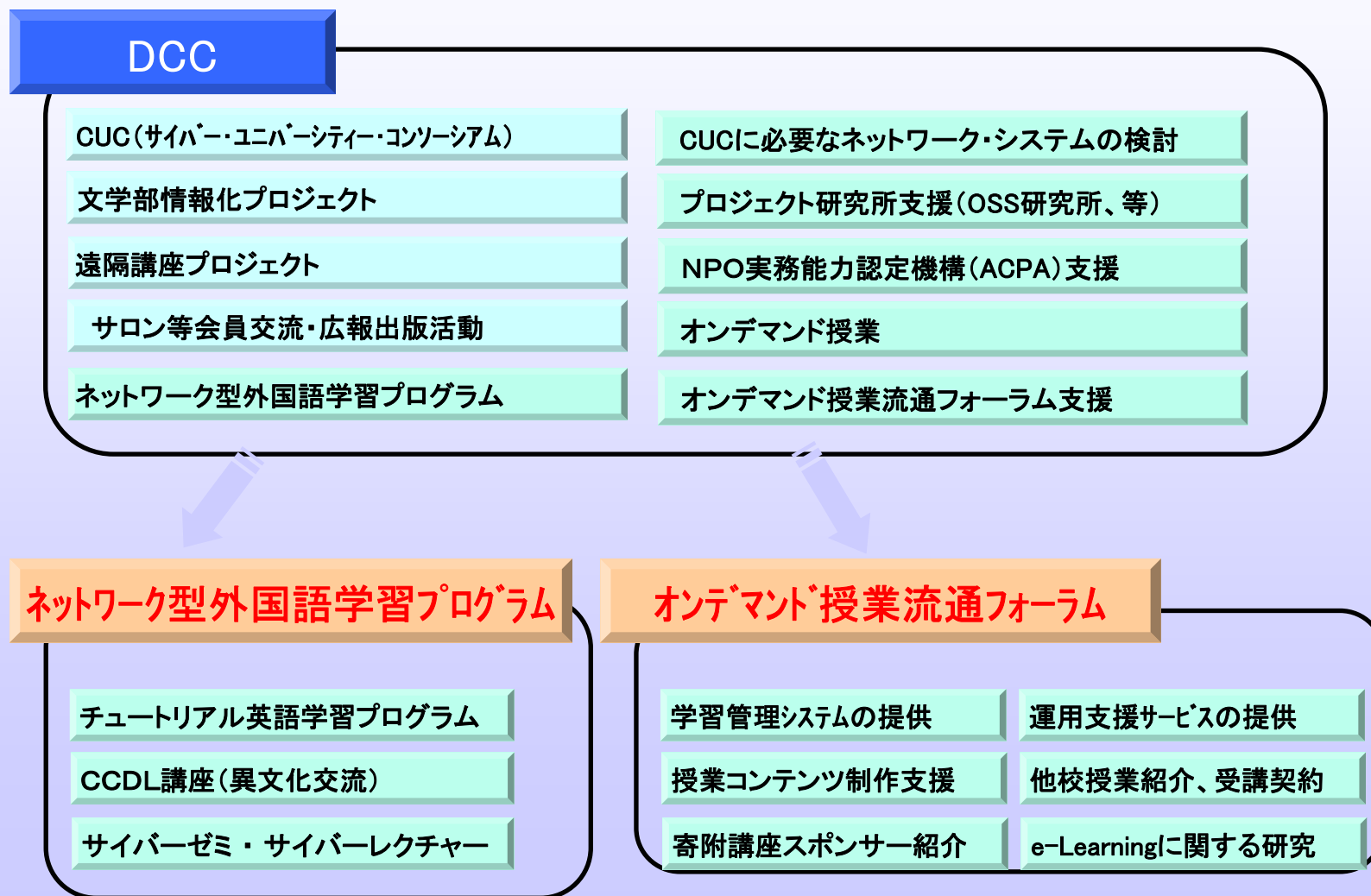
### 第3次DCC(2005～2007年度)

- ・アジアサイバーカレッジ(Asia Cyber College)設立にむけた遠隔講座
- ・オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)活動支援
- ・NPO実務能力認定機構(ACPA)活動支援

## 産学連携と社会貢献①

# DCC(デジタルキャンパスコンソーシアム)

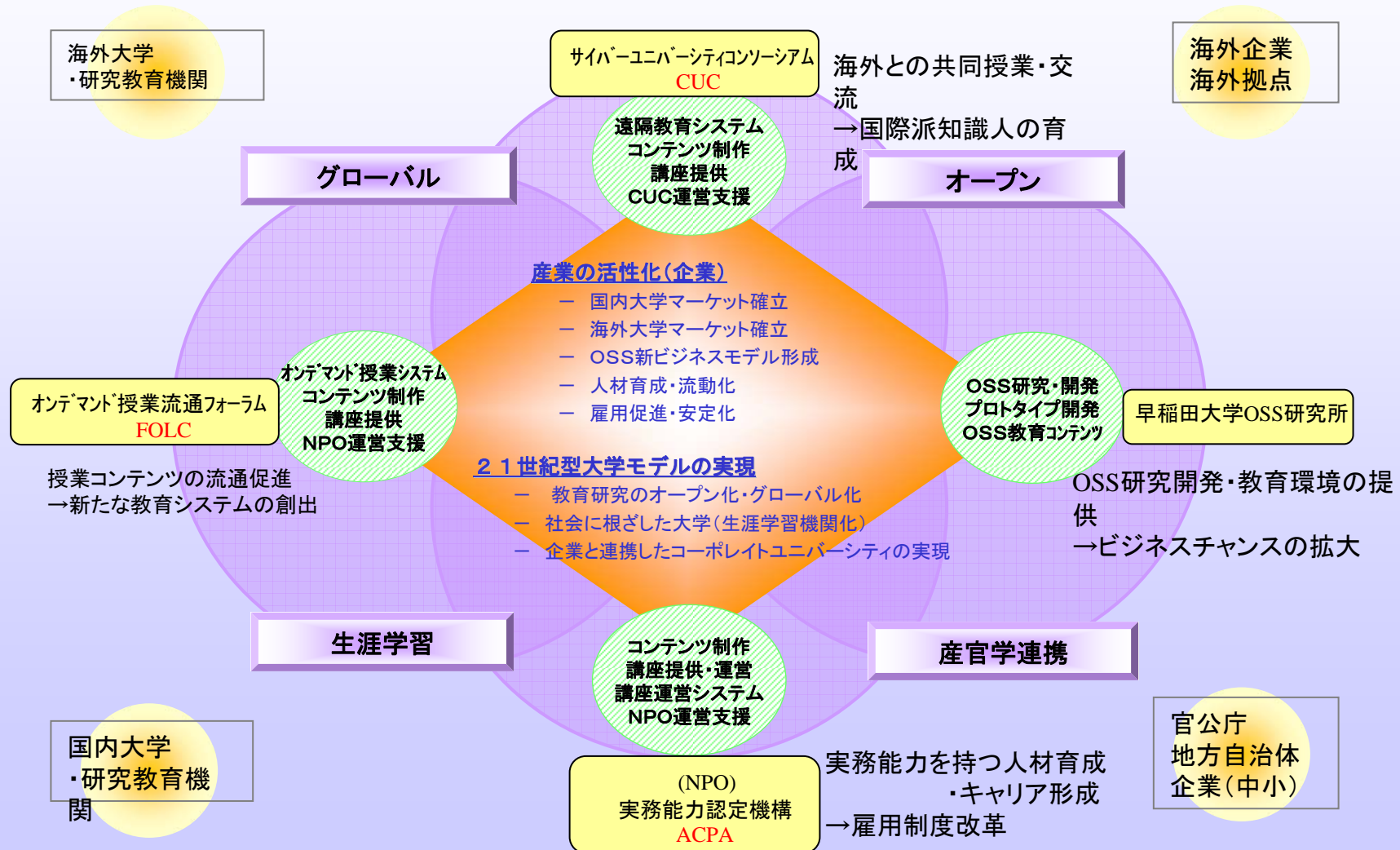
## • DCCの主な活動概要



# 産学連携と社会貢献①

## DCC(デジタルキャンパスコンソーシアム)

### e-Learningを推進するDCC





## 産学連携と社会貢献②

### NPO実務能力認定機構(ACPA)

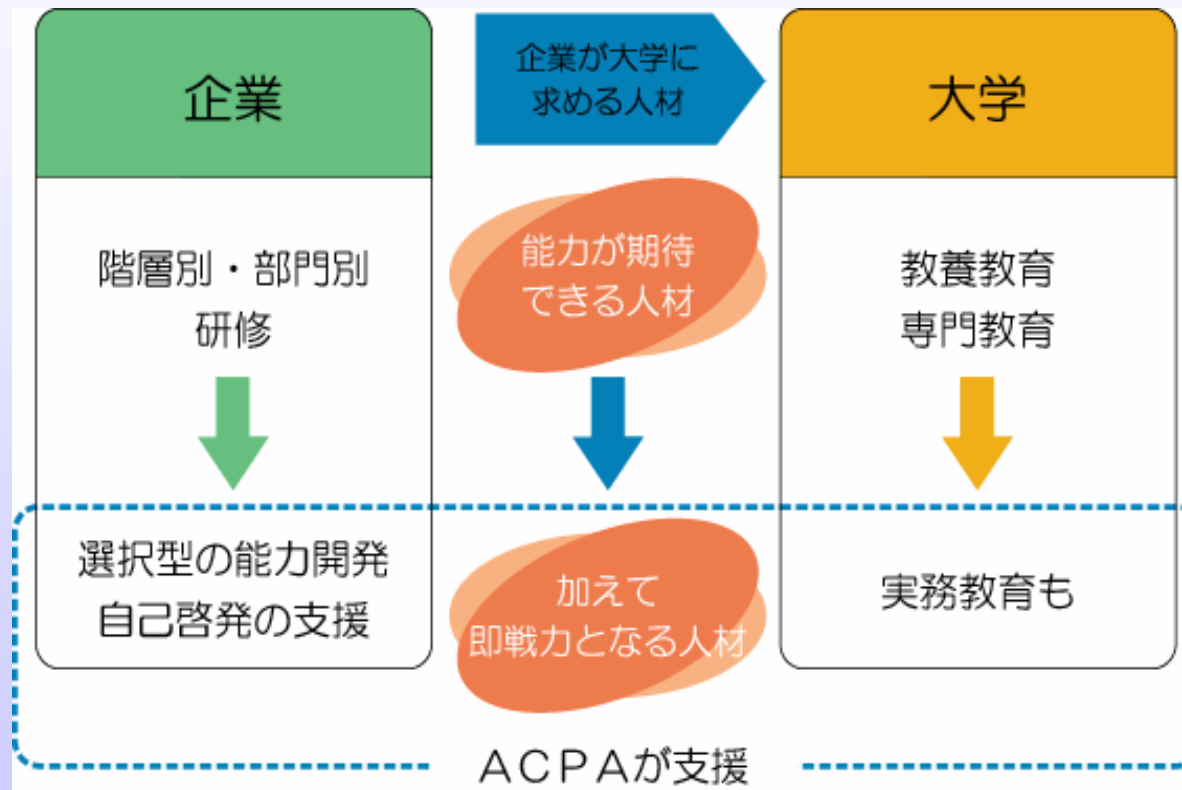
- ・ 企業・大学等教育機関・官公庁の賛同のもと、2003年に設立
- ・ 産学官連携による新しい教育システムと実務能力認定制度を確立し、社会が求める人材の育成を目標とした活動に取り組む



## 産学連携と社会貢献②

# NPO実務能力認定機構(ACPA)

- 人材育成をめぐる企業と大学の変化とACPA



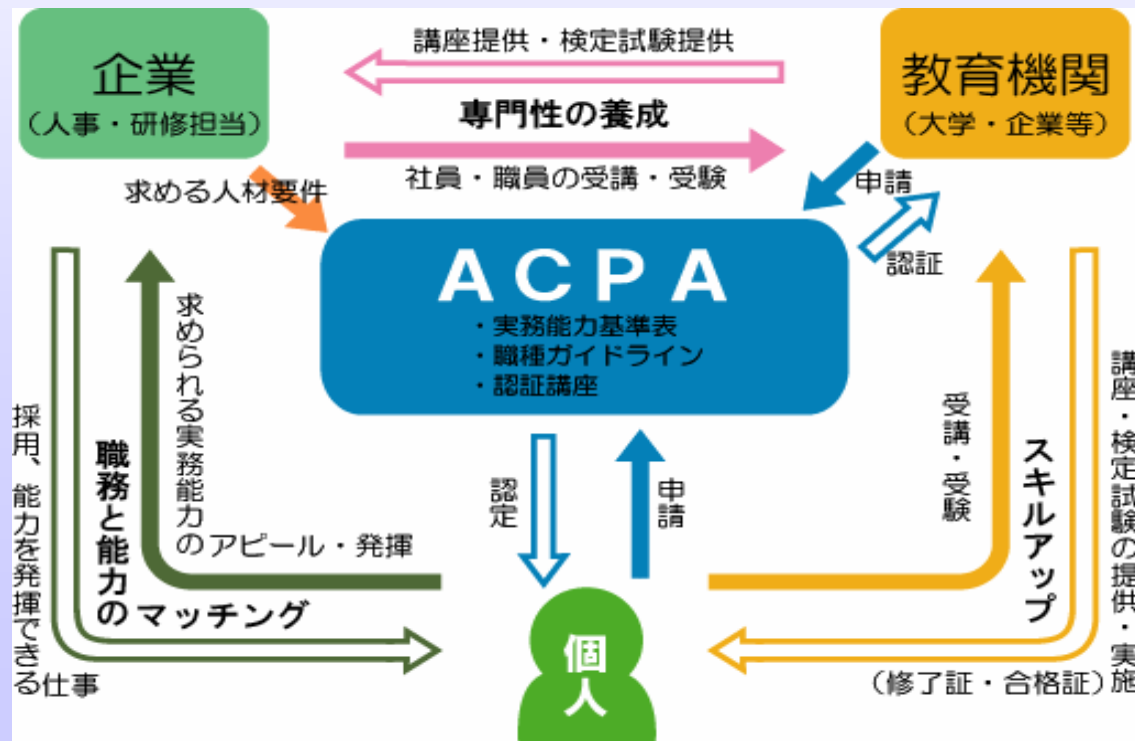
## 産学連携と社会貢献②

# NPO実務能力認定機構(ACPA)

### ・ ACPAの役割

- 専門性を育む人材育成を支援
- 就職・スキルアップ・キャリア形成を支援
- 職務と実務能力のマッチングを支援

### ACPAが目指す人材育成支援モデル

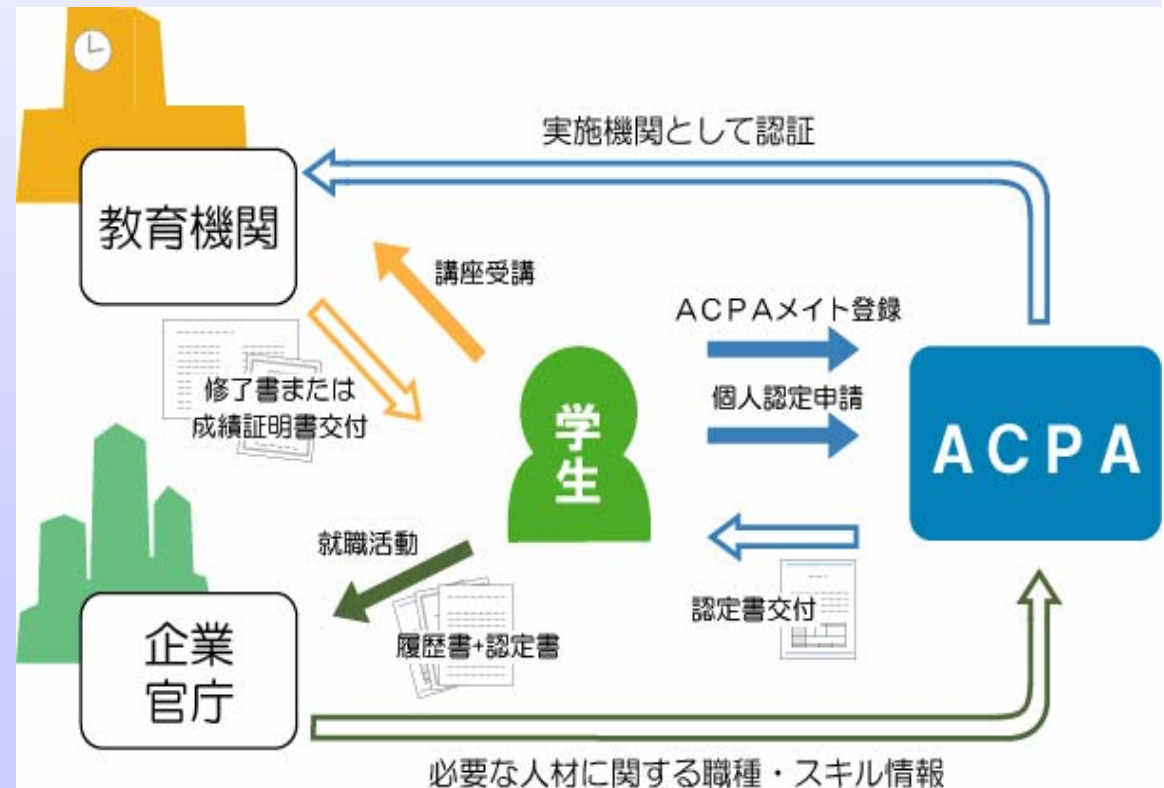


## 産学連携と社会貢献②

# NPO実務能力認定機構(ACPA)

### ・ ACPAが提供する認証・認定サービス

- ACPAでは、ITスキルやビジネスヒューマンスキルを身につけるために有効な「講座」を第三者機関として審査し、認証
- 個人がACPA認証講座を修了すると、受講内容に即したビジネススキルを認定し、認定書を発行
- 認定書は、入社試験等の際には、履歴書や職務経歴書ではアピールしきれない実務能力を表す証明書となり、また、人事配置の際の有力な参考資料に



## 産学連携と社会貢献③

# オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)

## ・ 設立の目的

### 【 高等教育の課題 】

現在の高等教育は物理的・組織的・制度的に閉鎖された環境にあり時代のニーズを反映することが難しい

#### 学生の視点

- ・ ニーズにマッチした科目選択ができない
- ・ 一方通行の知識伝達型授業が多い

#### 教員の視点

- ・ 教員の評価は研究業績主体であり、教育はあまり評価されない
- ・ 教育に熱心な教員ほど負担が大きくなる

#### 大学の視点

- ・ 現在の教室授業では教育方法を改善するきっかけがつかめない
- ・ 教育の高度化、多様化、オープン化に対応する教育効果向上の仕組みがない

### 【 フォーラム設立の目的 】

オンデマンド授業の流通により、  
オープンな環境で課題を克服

- オンデマンド授業コンテンツ流通の運営基盤を確立する。
- 特色ある授業コンテンツを大学等の高等教育機関の間で相互流通させる。
- 個別指導による問題発掘・解決型の新しいスタイルの教育を確立する。

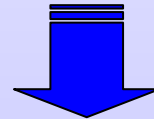
## 産学連携と社会貢献③

# オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)

- 目標



- ・教育機関の連携による知の共創と共有  
+
- ・それぞれの教育機関における特色強化

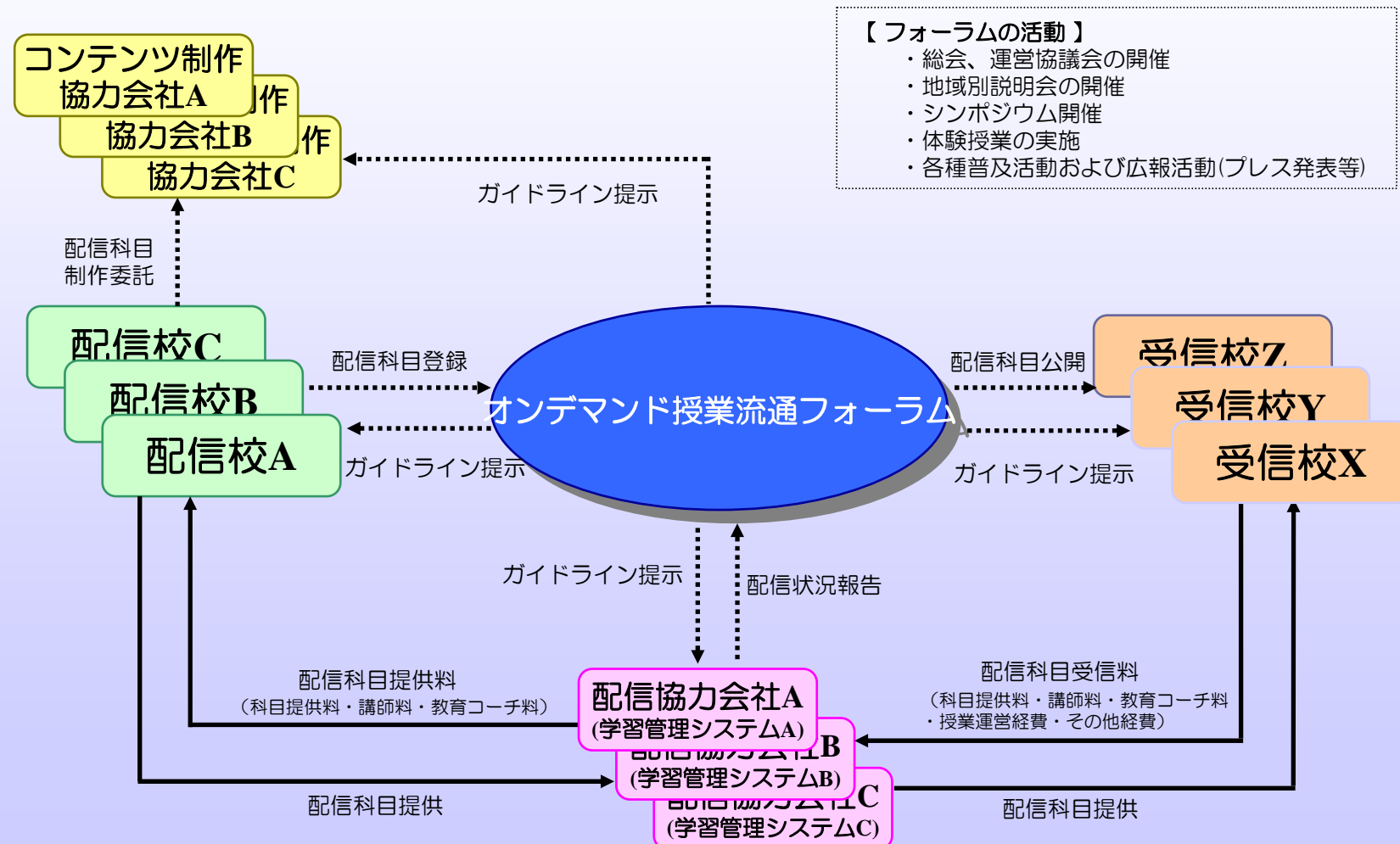


- ・魅力ある教育メニュー提供による学生満足度向上
- ・新しい教育スタイルの普及による教育改革実現
- ・高等教育のオープン化による社会への貢献

### 産学連携と社会貢献③

# オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)

## ・ 枠組み



## 産学連携と社会貢献③

# オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)

- FOLC登録科目(抜粋) ※FOLC登録科目は計117科目(2008年4月1日現在)

配信校	講座提供機関	科目名称	受信校	実施期
江戸川大学	江戸川大学	都市アメニティ論	早稲田大学	前期
江戸川大学	江戸川大学	Webデザインのための情報デザイン論	早稲田大学	後期
沖縄大学	沖縄大学	東アジア文化論	早稲田大学	後期
吉備国際大学	吉備国際大学	文化財から学ぶ歴史と科学	早稲田大学	前期
九州保健福祉大学	九州保健福祉大学	QOL概論	早稲田大学	後期
京都造形芸術大学	京都造形芸術大学	身体の哲学	早稲田大学	後期
日本福祉大学	日本福祉大学	福祉社会入門	早稲田大学	前期
北星学園大学短期大学部	北星学園大学短期大学部	英語で学ぶアメリカの文化 : 地域、エスニシティ、音楽	早稲田大学	後期
明治大学	明治大学	数理と情報	早稲田大学	後期
立教大学	立教大学	青年期の自我と恋愛	早稲田大学	前期
立教大学	立教大学	平和と安全保障	早稲田大学	後期
立命館大学	立命館大学	科学的な見方・考え方	早稲田大学	前期
早稲田大学	早稲田大学	異文化コミュニケーション論	吉備国際大学	前期
	早稲田大学	異文化コミュニケーション論	立教大学	前期
	早稲田大学	異文化コミュニケーション論	横浜創英短期大学	後期
	早稲田大学	文化と開発	吉備国際大学	後期
	早稲田大学	文化と開発	九州保健福祉大学	後期
	早稲田大学	バイオエシックス	九州保健福祉大学	前期
	早稲田大学	バイオエシックス	横浜創英短期大学	前期
早稲田大学	㈱ウチダ人材開発センタ	CompTIA Security+入門	早稲田大学	前期
	NTTコムウェア㈱	オープン・ソース・ソフトウェア入門	早稲田大学	後期
	㈱コーポレートディレクション	企業実務概論 ビジネス思考の基礎(入門編)	早稲田大学	前期・後期
	㈱コーポレートディレクション	企業実務概論 ビジネス思考の基礎(応用編)	早稲田大学	前期・後期
	㈱コーポレートディレクション	企業実務特論 マーケティング・ベーシック	早稲田大学	前期
	財団法人CG-ARTS協会	CGエンジニア入門	早稲田大学	前期
	財団法人CG-ARTS協会	CGクリエイタ入門	早稲田大学	後期
	財団法人日本漢字能力検定協会	アカデミックライティング演習講座	早稲田大学	前期



## 産学連携と社会貢献③

# オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)

## ・ 講義コンテンツの例

### 大学等教育機関提供科目

#### ◆ 制作支援

■ (株)東和エンジニアリング  
『情報デザイン論』  
(江戸川大学)



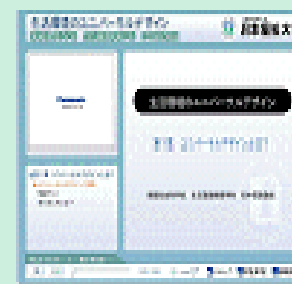
■ ソニーブロードバンドソリューション(株)  
『青年期の自我と恋愛』  
(立教大学)



■ 日本電気(株)  
『文化財から学ぶ歴史と科学』(吉備国際大学)



■ パナソニックSSマーケティング(株)  
『福祉社会入門』  
(日本福祉大学)



■ 横河電機(株)  
『都市アメニティ論』  
(江戸川大学)



#### ◆ 科目提供

■ (株)NTTコムウェア  
『オープン・ソース・ソフトウェア入門』(早稲田大学)



■ (株)NHKエンタープライズ21  
『アカデミックライティング演習講座』(早稲田大学)



■ (財)日本漢字能力検定協会  
『地球大進化』(早稲田大学)



## 産学連携と社会貢献③

# オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)

## 登録機関一覧

### 学校会員(77校) 50音順

(2008年4月1日現在)

#### 国内(計69校)

- |                                      |                                      |  |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 江戸川大学       | <input type="checkbox"/> 高知工科大学      | <input type="checkbox"/> 新潟リハビリテーション専門学校 |
| <input type="checkbox"/> 追手門学院大学     | <input type="checkbox"/> 甲南大学        | <input type="checkbox"/> 日本医科大学          |
| <input type="checkbox"/> 大手前大学       | <input type="checkbox"/> 駒澤大学        | <input type="checkbox"/> 日本女子大学          |
| <input type="checkbox"/> 岡山大学        | <input type="checkbox"/> 埼玉工業大学      | <input type="checkbox"/> 日本大学            |
| <input type="checkbox"/> 岡山理科大学      | <input type="checkbox"/> 相模女子大学      | <input type="checkbox"/> 日本福祉大学          |
| <input type="checkbox"/> 沖縄大学        | <input type="checkbox"/> 十文字学園女子大学   | <input type="checkbox"/> 阪大フロンティア研究機構    |
| <input type="checkbox"/> 鹿児島ハイテク専門学校 | <input type="checkbox"/> 成安造形大学      | <input type="checkbox"/> 梅花女子大学          |
| <input type="checkbox"/> 金沢工業大学      | <input type="checkbox"/> 星城大学        | <input type="checkbox"/> 広島経済大学          |
| <input type="checkbox"/> 関西大学        | <input type="checkbox"/> 聖徳大学        | <input type="checkbox"/> 法政大学            |
| <input type="checkbox"/> 関西学院大学      | <input type="checkbox"/> 聖隷クリストファー大学 | <input type="checkbox"/> 北星学園大学 短期大学部    |
| <input type="checkbox"/> 神田外語大学      | <input type="checkbox"/> 創価大学        | <input type="checkbox"/> 北陸大学            |
| <input type="checkbox"/> 学習院女子大学     | <input type="checkbox"/> 多摩大学        | <input type="checkbox"/> 名桜大学            |
| <input type="checkbox"/> 学習院大学       | <input type="checkbox"/> 千葉商科大学      | <input type="checkbox"/> 明治大学            |
| <input type="checkbox"/> 畿央大学        | <input type="checkbox"/> 中央大学        | <input type="checkbox"/> 明治薬科大学          |
| <input type="checkbox"/> 吉備国際大学      | <input type="checkbox"/> 桐蔭横浜大学      | <input type="checkbox"/> 桃山学院大学          |
| <input type="checkbox"/> 九州保健福祉大学    | <input type="checkbox"/> 東海大学        | <input type="checkbox"/> 山梨学院大学          |
| <input type="checkbox"/> 京都コンピュータ学院  | <input type="checkbox"/> 東京衛生学園専門学校  | <input type="checkbox"/> 横浜創英短期大学        |
| <input type="checkbox"/> 京都産業大学      | <input type="checkbox"/> 東京キリスト教学園   | <input type="checkbox"/> 四日市大学           |
| <input type="checkbox"/> 京都精華大学      | <input type="checkbox"/> 東京国際大学      | <input type="checkbox"/> 立教大学            |
| <input type="checkbox"/> 京都造形芸術大学    | <input type="checkbox"/> 東北学院大学      | <input type="checkbox"/> 立正大学            |
| <input type="checkbox"/> 共立女子大学      | <input type="checkbox"/> 苫小牧駒澤大学     | <input type="checkbox"/> 立命館大学           |
| <input type="checkbox"/> 杏林大学        | <input type="checkbox"/> 同志社大学       | <input type="checkbox"/> 龍谷大学            |
| <input type="checkbox"/> 慶應義塾大学      | <input type="checkbox"/> 新潟青陵大学      | <input type="checkbox"/> 早稲田大学           |

#### 海外(計8校)

##### ◎アメリカ

- Anne Arundel Community College

##### ◎インド

- Laxmi Devi Institute of Engineering & Technology

##### ◎韓国

- Hanyang Women's University

- Open Cyber University

- Namseoul University

##### ◎台湾

- 南台科技大学

- 文藻外語学院

##### ◎ベトナム

- Hanoi University of Technology

## 産学連携と社会貢献③

# オンデマンド授業流通フォーラム(FOLC)

## 登録機関一覧

### 企業会員(80社)

※■は運営協議会委員

(2008年4月1日現在)

#### 国内(計79社)

- アーティス株式会社
- 株式会社アーネット
- 株式会社アイディ
- 株式会社アルク
- アルファコンピュータ株式会社
- eエデュケーション総合研究所有限会社
- 株式会社インディ・アソシエイツ(旧アウズ(株))
- 株式会社ウエダ本社
- 株式会社うすい
- 株式会社ウチダ人材開発センター
- 株式会社内田洋行
- 有限会社エクセス
- エスエイティーティー株式会社
- NECラーニング株式会社
- 株式会社NHKエンタープライズ
- NTTコムウェア株式会社
- エヌ・ティ・ティ・コム チェオ株式会社
- 有限会社エヌ・ユー・エス
- 株式会社エパーグリーン・デジタル・コンテンツ
- エモーショナルピッツ株式会社
- 株式会社エルモ社
- 沖縄映像文化研究所
- 株式会社オルタスジャパン
- 株式会社 神田須田製作所
- 株式会社学習研究社
- ギガビジョン株式会社
- 株式会社紀伊國屋書店
- 株式会社クオリティーブロードバンド
- クレアシオン株式会社
- 株式会社 経営情報センター
- 株式会社建築資料研究社・日建学院
- 株式会社廣済堂
- 株式会社COCO・WA・DOCO
- 零河原株式会社
- サイバーリンク株式会社
- 彩プロダクション
- CG-ARTS協会
- 株式会社シーディーネットワークス・ジャパン
- 株式会社システムゼウス
- 有限会社シテオフィス安永
- 株式会社シュビキ
- セレゴ・ジャパン株式会社
- 特定非営利活動法人 先端教育情報研究所
- ソニーテクノクリエイティブ株式会社
- ソニーブロードバンドソリューション株式会社
- 株式会社ソリッドレイ研究所
- ダイキン工業株式会社
- 大日本印刷株式会社
- 株式会社TEI
- NPO法人デジタルコンテンツ協議会
- 株式会社デジタル・ナレッジ
- 株式会社テレビ朝日クリエイティブ

#### 海外(計1社)

- 株式会社ザイニックス(韓国)
- 電子システム株式会社
- 東通産業株式会社
- 株式会社東和エンジニアリング
- トランスコスモス株式会社
- 財団法人日本漢字能力検定協会
- 日本電気株式会社
- 株式会社日本統計事務センター
- 日本ビクター株式会社
- ネクステック株式会社
- ネクストソリューション株式会社
- 株式会社ネットラーニング
- パナソニックSSマーケティング株式会社
- 株式会社ピーエイチピー研究所
- 株式会社BSNアイネット
- 株式会社日立製作所
- ヒューマックス株式会社
- 株式会社メディアリンク
- 株式会社ユーキャン
- 有限会社ユーザー・センタード・デザイン
- 株式会社ゆびとま
- 横河電機株式会社
- 横浜市安全管理局
- 株式会社リアルプロジェクト
- 株式会社リレーション
- レノボ・ジャパン株式会社
- ワールドビジネスセンター株式会社
- 株式会社早稲田総研インターナショナル

# 情報部門に求められている役割

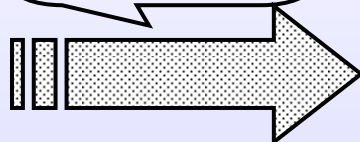
現場のニーズをいち早く理解・把握し、何のために  
何をどうすべきかを提案できる現場人材(コア人材)の育成

これまで 20世紀型の競争力:現場での問題解決力

学生・教職員

・こういうものを作って欲しいができますか?  
・こういうサービスを望んでいるが提供してくれますか?

利用者からの  
明快な表現



情報企画課(MNC)

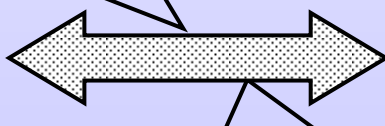
・顧客からの要請は明確  
・学内での取り組み方法に注力。「効率性」の範囲で対応解決  
・HOWが中心

これから 21世紀型の競争力:現場での問題提起力と解決力

学生・教職員

・自分たちには何か欠けているような気がする...  
・特に不満はない、しかし何となく楽しくない...

利用者は  
表現力を持たない



・利用者との深いリレーションの中から解答を見出す必要性あり  
・システムだけでなくサービスを含めて考える時代

情報企画課(MNC)

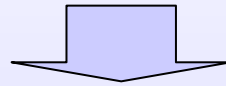
・何を提案すべきか、なぜそれを提案すべきかを決定する必要性大(ソリューションの提示)  
・WHAT、WHYが中心

・価値をもたらすものは顧客との接点=現場にあり  
・現場人材(コア人材)の継続的な育成が必要

# プロジェクト型職員の育成

- 管理型からプロジェクト型へ

- ・ 18歳人口減に伴う学生確保の問題、地域住民への貢献、法人化後の経営体質の変革(国立大学)
- ・ 教員と職員のどちらの領分にも属さない、あるいは双方の領分にまたがる未経験の領域の出現

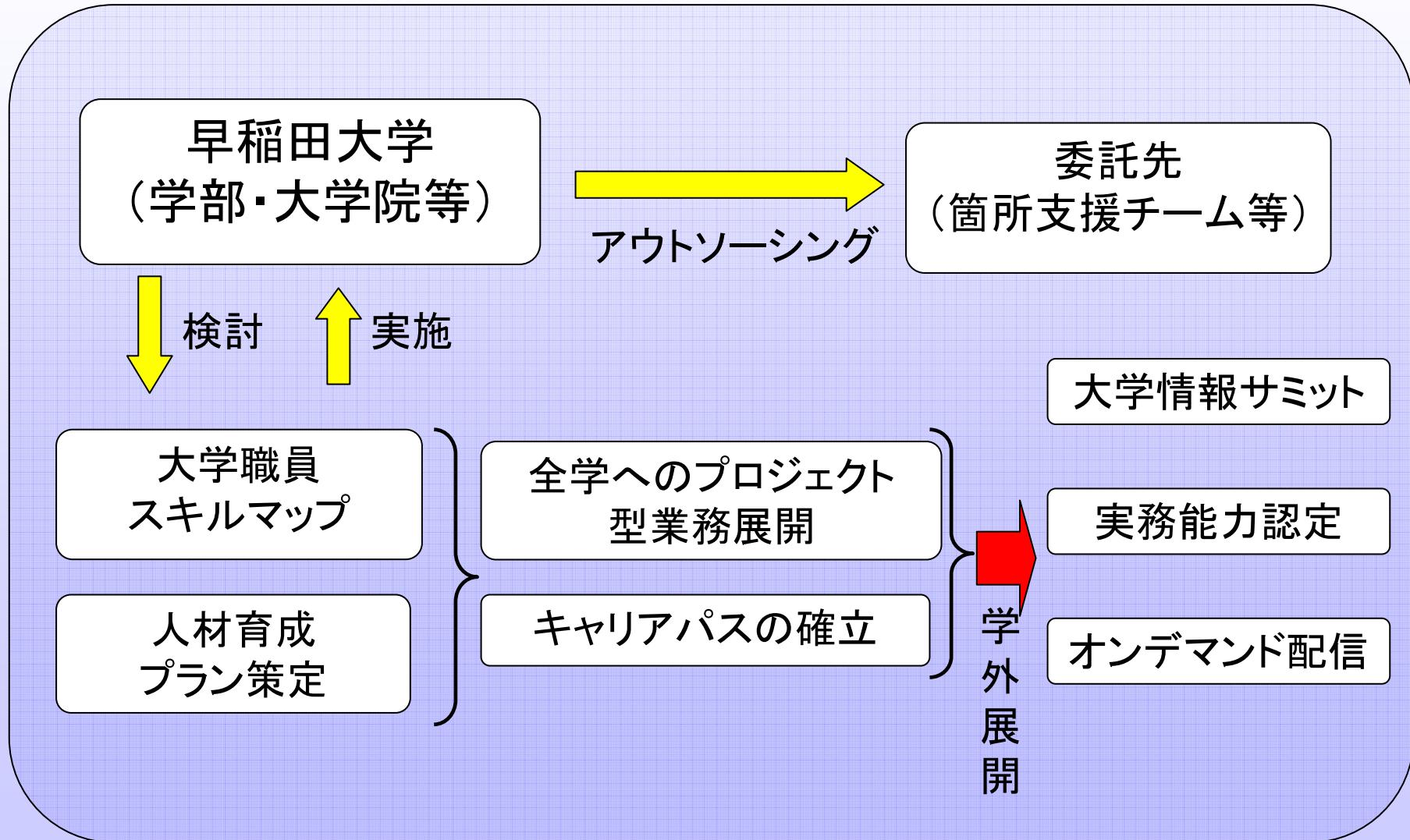


- 「管理運営型業務」から「プロジェクト型業務」への変革
- プロジェクト型業務を推進できる職員の育成

## プロジェクト型職員に必要な実務能力:

1. 構想段階でプロジェクトをシステムとして構築する能力
2. 計画段階で複数のシナリオを策定する能力
3. 実施段階でのリーダーシップ、コミュニケーション能力、交渉力
4. コントロール段階での編集能力、調整能力、進捗管理能力、品質保証能力
5. 撤収段階で組織のノウハウとして定着させ、次への改善に結びつける能力

# 職員研修プログラムの構築計画



# 早稲田大学の情報化戦略：まとめ

- これまでの情報化推進により、一定水準の教育研究改革を実現し、現状のポジションを維持
  - やり直し、学び続ける「しかけ」がある
  - 改革に特許はない
  - 大学の知をオープンにするという見識
  - 何かをせずにはいられない「この指とまれ」という環境
  - 1年生の心に刻み込む「学問の楽しさ」
  - 年に1万人の英語力を底上げする
  - 「やり直す」ための場を作る
  - 任せることで人が育つ
  - 共有していく手続に意味がある
  - プロセスが意識を変え結果を変える



「情報化」「オープン化」を手がかりに、  
早稲田大学の「教育力」、「研究力」を高めたい！



**Thank you...**